

ひたちビデオサロン

二十周年記念誌



ひたちビデオサロン

二十周年記念誌

# 目次

## 巻頭言

天地人に恵まれて二十年	小田切亘	1
ビデオで学ぶ 地域のこと 人のこと	豊田正夫	3
写真で見るひたちビデオサロンのあゆみ		5
会員の記念文集		
私のビデオ歴	石川 久	37
ノンリニア編集苦勞話の思い出	石川 誠	38
ビデオ雑感	伊藤 廉	39
山歩きとビデオの楽しみ	井村泰也	39
ビデオわが人生	上原 稔	41
ひたちビデオサロン二十周年記念に寄せて	海老澤公	42
ひたちビデオサロン二十周年記念によせて	及川春治	43
私の記録と動機	大竹七衛	44
定年後の趣味はビデオ	鎌形 進	45
ビデオカメラに振り回されて	小池金治	46
思い出	小林良弘	48
ひたちビデオサロン二十周年に寄せて	小又力博	48

ハプニング	小室政衛	49
充電	佐藤たけつぐ	50
発想転換	嶋之木誠一	51
北の旅	菅原喜一	52
二十周年を迎えての決意	鈴木 静	53
私とビデオ	鈴木 隆	54
映像との出逢い	鈴木光雄	55
創立時の思い出	関 太郎	56
定年後の趣味	高野栄一	57
私のビデオ歴	高橋純雄	58
ビデオで広がる知人・友人の輪	滝 孝光	59
先輩の研究意欲に感激して	田光義和	61
ビデオと私	戸羽三弥	62
8ミリ教室よりビデオサロンまで	友部丈夫	63
「ひたちビデオサロン」は、素晴らしい!	外山仁一	63
私の8ミリ映画とビデオ歴	橋浦貞雄	64
誘われ、教えられ、背中を押されて	原田英一郎	65
私の履歴	原田 謙	66
私のビデオライフ	藤来 稔	68
ビデオとわたし	細川正男	69
七十の手習い	本田正次	70

私のビデオ編集考	増岡信雄	71
ビデオと私	松下喜行	74
ビデオカメラとの出会い	松本肇	75
こんな趣味で本当によかった	村田一郎	76
二十才を迎えたひたちビデオサロンと私	矢部正夫	77
ビデオと共に	弓野忠次郎	78
HVS二十周年記念について	吉村進	79
ひたちビデオサロン二十年のあゆみ		81
会員の外部コンクールでの入賞記録		86
会員の記録		91
会則		93
編集後記		95

# 巻頭言

## 天地人に恵まれて二十年

会長 小田切 亘



ホームビデオの撮影と編集の同好会「ひたちちビデオサロン」は、平成十四年一月で二十周年を迎えました。この年の四月には日本映像ネットワークの全国交流会を日立大会としてお迎えできました。また3G携帯電話やADSLが急速に普及した年でした。七月には日立市内に光通信のBフレッツのサービスが始まり、まさにブロードバンド時代幕開けの年でした。

ここに会員の皆さんとともに二十周年をお祝いするとともに、この会を発展させてきた要因について、天・地・人に分けて振り返ってみたいと思います。

はじめに天の時としてこの二十年間の時代背景をみると、ホームビデオにとってはまさに誕生から成人までの技術革新の時期でした。カメラは肩掛けの重いセパレートタイプから、今では手のひらサイズ、一部はディスクカメラまで変わりました。媒体はベータやVHSから、Hi8とSiVHSを経て殆んどDVになり、作品ではさらにDVDでMPEG2で二時間ものの配布も可能になりました。

会員には8ミリのフィルムつなぎの経験者も少なくありません。VHSのみのときはコピーによる映像劣化や音の位置あわせやレベル調節に悩みました。デジタルになって編集画質が格段に向上し、さらに今では作業もパソコンで行う人が半数近くなりました。この文を書いている今、テレビで放送五十年の特別番組を放映していますが、その五十年の中のホームビデオ普及の後半のほとんどを、私たちは映像を愛する友達同士としてお付き合いしてこられたことは何とすばらしいことではありませんか。

二番目の地の利として私たちが活動できた拠点はなんとといっても日立視聴覚センターでした。この会はセンターのビデオ講習会の同窓会で始まりました。センターの四階の一室と、センターにある数々の機材を利用できたことは大変幸せでした。この地の利に報いるべく、センターのいろいろなイベントに

全員が積極的に参加し、お手伝いしてきました。センター主催の映像文化フェスティバル、全国規模で作品が集まるようになったひたち映像コンクール、毎年的一般市民向けのビデオ講習会、市内の視聴覚教材製作委員会での活動、さらには日立いきいき百年塾をはじめ市内のさまざまなイベントの映像記録のお手伝いをしてきました。茨城県レベルでも芸術祭の小型映画・ビデオ部門への参加と大会運営、大好きいばらき県民会議やいばらき青年の船の記録などを担当してきました。

最後に地の利は人の和に如かず、会が発展したのは良き仲間があつてのことです。大正生まれからの幅広い年齢構成ながら、それぞれに個性豊かな会員の和が、いちど入ったら止められない会の雰囲気を作ってきました。とりわけ豊田さんと海老沢さんの名前を特記せずにはいられません。91ページの表で、会員の入会の時期が夏場に集中しているのは、お二人が中心になつて行われたビデオ講習会が入会の動機となつている事情を説明して余りあります。お二人の撮影・編集のずば抜けた技術と人脈の広さは、いつも会の推進力でありました。豊田さんが毎月手作りされたカラー印刷の会報が、百六十五号を数え、会の発展を支えてきたことに、改めて会員一同深く感謝したいと思います。

最後に私事も含めてこの間のパソコン編集の著しい変化について少し書いてみます。初めてカノープスの320×240サイズのキャプチャーボード Power Movie MP/V が私の家に届いたのが、平成七年、五年半前のことです。ソフトは Video Studio 2でした。夢だつた種々の切り替え効果が可能になり、睡眠時間を詰めて編集しました。続いて同社の Power Capture PCIで、640×480サイズの画質になりました。ソニーのVX1000のデジタルビデオカメラがあつたという間に沢山の会員に普及、テレビのニュース画面の中にプロもそれを使っているのを見つけて誇らしい気持ちになつたものです。

待ちに待つた全デジタルが、DPS社の Spark で可能になつたのが平成十年一月、ソフトは Premiere 4.2ですが、最初は英語版でした。とにかく当時は世界中にただ一機種しかなかったので、問題解決も慣れない英語で、随分インターネットメールのお世話になりました。

その後各社から新機種がでて一気に普及、最近更新したマザーボードとXPの組み合わせでは、標



準品だけで入出力から簡単な編集までサポートされ、120GBクラスの外付けHDDも安価になりました。昔キヤプチャーボードやSCSI HDDに高価な投資をし、取り扱いに苦労したのが、本当に馬鹿馬鹿しく思い出され、「早いものほど損をする」のを実感しているこの頃です。

## ビデオで学ぶ 地域のこと 人のこと

副会長 豊田正夫

昭和五十六年五月、市民の生涯学習をすすめるために建てられた日立市視聴覚センターがオープンしました。そのスタッフのひとりとして私も加わりました。

その年の九月と十二月に行われたビデオ撮影講習会の参加者にビデオクラブ結成を呼びかけ、十二月十七日に四人の準備委員と私が集まり、発足のための打合せが行われました。会の名称は「日立ビデオサロン」。その後、玄光社発行の雑誌の編集部にお伺いを立てOKをもらいました。また、「日立」は特定のメーカーとかかわりがあるように思われるのではと「ひたち」に改められました。

その会則の中に「地域文化、社会福祉の向上のための活動に参加します」という項目があります。幸い歴代の会長さんたちのご理解と会員の皆さんの積極的な参加で、この目的もこの二十年間に大きな成果を残してこることができました。その一部をここで振り返ってみたいと思います。

最初に取り組んだのは、発足の翌月、市民会館で催された「子どもまつり郷土芸能発表会」の記録でした。会員四人の協力でできたテープは、センターのライブラリーに今でも保存されているはずですが、その後も「風流物」の公演や「よかつへまつり」などの記録に協力しました。昭和六十年の「NHKビデオコンクール」に応募し、全国から集まった千二百本の中からベスト十三に選ばれた「夢風船」<sup>84</sup>よかつへ



まつりから」は大快挙でした。(10ページ参照)

その頃、市内の各地域で展開されていた川をきれいにする運動の記録を、会で自主制作しようという提案があり、会員総参加で半年かけて完成した「よみがえる日立の川」は、第一回の「ひたち映像コンクール」で優秀賞に輝き、地域での上映も大好評でした。(13ページ参照)

数々の成果が認められ、視聴覚センターのビデオ教材制作事業にも参加、郷土資料制作グループの一員として「日立地方に伝わる小正月行事」「久慈川の鮭漁」などを、昭和六十二年に発足した「視聴覚教材制作委員会」にも参加、「こんにちは動物園」「ひたちちゅー海・山・まちゅー」「土に埋もれた文化財」「かやぶき屋根の四季」「信仰の山・かびれ」以下地域」との今昔を描いた作品が続き、最新作「日立駅前物語」まで数多くの貴重な記録が残されました。

その他、市制五十周年事業の記録、ひたち生き生き百年塾の広報ビデオ、子ども長期自然体験村・山中友子隊の記録、さらに活動は県域にも広がり、大好きいばらき県民会議の諸事業、いばらき青年の船、障害者のひまわり号の旅、等々で「ひたちビデオサロン」のカメラマンが活躍してきました。個人的にも各地域や職場でビデオの腕を大いにふるっていることと思います。

この二十年、まちや自然の景観は大きく変わりました。私たちのカメラがその移り変わりを留めておくことに少しでも役に立ってきたのなら、大変嬉しいことだと思います。今年の春、七十二年に一度行われる「東・西金砂神社大祭礼」の記録も、七十二年後の人たちがどのように見てくれるのか考えると胸踊るものがあります。

メディアはフィルムから磁気テープ、光ディスクに変わっても記録される映像がある限り、私たちの映像に寄せる情熱は不滅でありたいものです。



# 写真で見る

## 二十年

「ひたちビデオサロン」の二十年間の歩みを写真と雑誌のスクラップなどで振り返ってみたいと思います。

残念なことに、私たちはビデオカメラマンなので、肝心の場所ではスチルカメラのシャッターは切っていません。不足している部分は、皆さんの記憶の中のアルバムで補っていただければ幸いです。



設立総会  
第1回例会

(1982/1/24)



視聴覚センター研修室で開かれた第1回例会  
会長に黒沢勇さん、副会長に小山礼二郎さんなどを選出  
会則が決定された

ビデオライフを楽しむ人の集まり

## 日立ビデオサロンが発足しました

——どなたでも入会できます——

家庭に職場にビデオの普及はめざましく、いろいろな形でビデオを楽しんで居られる方が多いと思います。こういった方たちが、お互に、テープや情報の交換をしたり、撮影技術の勉強をするための集まり「日立ビデオサロン」が1月から発足いたしました。

ビデオを趣味とする方なら、だれでも入会できます。これからは多くの仲間と一緒に、マイホームの記録からスタジオでの作品制作まで、大いにビデオを楽しみましょう。入会をお待ちして居ります。とりあえず、次のようなことを実施してまいります。

- ① 毎月1回月例会を開催、作品合評・勉強会などをおこないます。(例会日は、毎月第3日曜日、午後1時30分から、視聴覚センターで。)
- ② 撮影会・作品発表会などを開催します。
- ③ 作品制作をとおして、地域の文化活動に参加します。



— 入会のお申込みは…… —

会費は、年額3,000円です。会費を添えて、下記の事務局へお申込みください  
例会日に直接おいでになっても結構です。

- ① ビデオ番組制作のためのスタッフ(アナウンサーなど)としてお手伝いくださる方も大歓迎します。ご相談ください。
- ② ビデオで記録に残しておきたい風俗・行事などがありましたら、情報を提供してください。

## 日立ビデオサロン

事務局・日立市末広町1-1-4  
日立市視聴覚センター内  
☎ (0294) 35-1215

発足時の会員募集

### 日立ビデオ愛好会 の会員募集

ビデオを趣味とするかたなど  
どなたでも。

▽第一回例会 一月二十四日  
午後一時三十分 視聴覚セン  
ター研修室 ▽第二回以降  
毎月第三日曜日に定例会を開  
き、情報交換や勉強会

③ (視聴覚センター・費用  
一・二一五)

日立市報

昭和 57 年3月例会  
日立製作所東海工場から講師  
をお呼びして研修会



HITACHI VK-C800R  
MASTACS VT6800



(57)

H.V.S 日立ビデオサロン 会員名簿

( 1977.1.24現在 )

no.	氏名	住 所	業 種	備 考
1.	阿部 博	日立市滑川本町		
2.	金沢 和男	.. 東大沼町		
3.	黒沢 勇	.. 西成沢町		
4.	小山 礼三郎	.. 東大沼町		
5.	長崎 健一	.. 東成沢町		
6.	鈴木 稔	.. 高鈴町		
7.	高橋 純雄	.. 東大沼町		
8.	豊田 正夫	.. 鮎川町		
9.	根本 義男	.. 大みか町		
10.	平輪 義道	.. 西成沢町		
11.	三森 清保	.. 南高野町		
12.	村山 良一	.. 田尻町		
13.	矢部 正夫	.. 津陸太田市原町		
14.	岡 喜久雄	.. 村市酒門町		
15.	岡 太郎	.. 日立市神島田		
16.	中根 泰雄	.. 鮎川町		
17.	綿引 肇甲	.. 井天町		
18.	小林 良弘	.. 千石町		

日 立 市

発足時の会員名簿



第1回の撮影会は  
筑波山へ（1984/7）



SONY HVC-2800



忘年会も大盛り上がり

## COMMUNICATION

### 視聴覚センターの機材を自由に使 い、日夜カメラ撮りを研究中！

#### 日立ビデオサロン（茨城）

私たちの会が発足したのは、'82年1月でした。茨城県日立市に視聴覚センターがオープンし、その主催で開かれたビデオ撮影講習会の受講者がまず母体となり、準備を進め、会員13名でスタートしたのでした。

（略称HVS）  
その後、毎月第3日曜日を例会日と定め、視聴覚センターの製作演習室を会場に勉強会を開いています。会員は、ほとんどが初心者で、カメラ撮りのABCからやっています。カメラを持つていない人もまった作品を発表できる段階ではありませんが、日蓮上人の足跡を

ビデオで追って東北一巡をしたいという黒沢会長をはじめ、やがては、名作、話題作をどんどん発表しようとする会員は多いです。市の視聴覚センターには、本格的なテレビスタジオや編集機、レシネ、ダビング装置などがあり主に学校教材の制作をしています。私が、私たちが会員も無料で自由に使用させてもらうことができます。会員総出で簡単な番組を作ったりしながら、制作の勉強もしています。



発足2年目を迎えて、会員数も20名を越し、いよいよ'83年は本格的な活動を進めていかなければなりません。個人作品のレベルアップをはかり、楽しみながら、その技術を生かして、センターの番組制作のお手伝いなどもしていきたいと思っています。とはいえ、どのような会の運営をしていけばよいのか暗中模索が実情です。先輩諸クラブのご指導をお願い致します。作品交換などしていただければ幸いです。

代表者・黒沢勇 会員数・23名  
会費・年3000円 事務局連絡  
先・〒315茨城県日立市末広町1-4  
日立市視聴覚センター内  
☎0294-351215 豊田  
正夫

雑誌「ビデオサロン」  
（1983年1月号）



日立港へ入港した「日本丸」を背景に  
(1983/5)

# ひたちビデオサロン H.V.S 会報

No. 1

昭和59年9月号

発行・ひたちビデオサロン。(事務局・〒316 日立市末広町1-1-4, 日立市視聴覚センター内, TEL. 0294-35-1215)

## 初の撮影会に9人参加 昼の撮影より夜の宴会

3度目の正座やつと実施した撮影会。意をなさい7月21日、茨波山を過ぎました。本撮影の参加者は、小林、木村、鈴木、三森、渡辺、豊田の6人。旅歴「江戸屋」に到着。まずはビールでのびを頂いてひと休め、船内からテンプルカー乗り場へ押しかけて、その日は盛り、夜の懇親会へ。始まってまもなく、矢部さん、出原さんから直撃された平瀬さんも加わって、一層にぞやかく。その様子は一タームレビーで完全記録されるという。

またビデオサロンにはこの日の宴会でした。聖朝は、及川さんも参加。つづいてこの撮影に続いてが公園へ。カマの袖虎りの口上を撮影。滞りなくつぎました。撮影会とは右ばかりの船内での昼食でした。それほりに片断は2日間で。なお、作風の草紙をしてくれた渡辺さん。自分の手紙をしてくれた渡辺さん、ご芳名をいられたい木村さん。その他、ご協力をくださいました皆さんありがとうございます。是非とも会報の沢山報告も致しませう。

### 会費計算報告

< 収入 >

参加費収入 32,000 (4,000 × 8人)  
一般会費より補助 46,192  
御芳名 6,000 (木村様より)  
計 84,192円

< 支出 >

宿泊飲食費 70,592 (江戸屋)  
入館料 3,200 (がま公園)  
交通費 5,400 (有料道路)  
ガソリン代 5,000  
計 84,192円  
要領現金なし

小林良弘

「会報」創刊号はまだ手書きでした

### 8月はすれちがひ例会

8月何回をやっても人が集まらないうか。本例会も、延期予定の例会も合わせて4人。折から「ひたちまつり」も前かかっているところ。早くと解散。

ところが、そのすぐ後、別の会費くら。さうやって、「つづろ」や「碓氷川イカダ下り」を見て、これも解散。すれちがひ例会とってしまわれました。

### 9月の例会案内

9月例会は、次のおり断ります。なるべく参加回数集まるよう行動します。

- ◎ 9月16日(日)
  - ・ 午前9:30~12:30 碓氷川撮影 (榎本守代氏場所) - 自由参加
  - ・ 午後1:30~4:30 例会 (視聴覚センター)
- 記録会の様子、その他の作品撮影も撮影会の際の写真かまっています。お楽しみに!

### 9月の撮影ガイド

郷土文化連  
のつどい  
9月29日(土)  
午後2~7時  
榎本守代  
山吹運脚公園  
(別紙参照)

## 日立風流物

・ 昭和59年9月15日(土)・16日(日)・桐本市市民広場

時間	内容	備考	時間	内容	備考
9/15 12:45	神谷のこぼし		12:45	神谷のこぼし	30分
	市議会報告		12:45	カラオケ大会 (7月15日)	1時間
	市議会の報告 日立視聴覚センター 後部・大ホール		13:00	風流物公開 2台	30分
13:00	風流物公開 2台	30分	9/16 9:30	各会合公開 (約11、会場、運動)	30分
13:40	各会合公開 (倉田、水久保、木本)	30分	10:00	風流物公開 2台	30分
14:20	カラオケ大会(一般)	1時間10分	10:40	各会合公開 (約11、会場、運動)	30分
15:20	各会合公開 (倉田、水久保、木本)	30分	11:15	市議会報告 (日立視聴覚センター)	1時間
16:00	風流物公開 (北、西条1台ずつ)	1時間	12:00	風流物公開 2台	30分

※視聴覚センターで、両日に行われ、この様子を転写します。お早目にくださる方が居りますら、ぜひまでご参加ください。

### いかがでしたか 創刊号!!

かねてより発行を待たれていた創刊号、ついに発行されました。この創刊号、毎月10日頃発行予定です。この紙面でお知らせをさせていただきます。お楽しみに!

お早目に発行いたします。お楽しみに! (聖朝)

■全国大会出場作品		
作 者 名	作 品 名	作 品 名
青 山 輝 尚 (岡 山)	東遷からそのたより	
大 野 勝 弘 (京 都)	おぼあちゃん とにかく長生き	
柏 井 光 幸 (京 都)	ふる里のわか母校	
金 子 賢 (沖 縄)	悠遠の郷・生熊記録 コノハサ	
川 村 昭 一 (青 森)	おじいちゃんおかえりなさい	
北九州放送 北小倉中学校ビデオクラブ (福 岡)	ぼくらの北小倉	
武 志 久 (廣 島)	わたしはカアちゃん	
成 瀬 八 郎 (香 手)	望のぞみのアイ・ラブ・もり	
ひたちビデオサロン (茨 城)	夢風船よかっぺまつりから	
広島県立 広島工業高等学校放送部 (広 島)	パンザイおっちゃん先生	
藤 野 廣 次 (東 京)	また1人消えた	
牧 原 伸 一 郎 (東 京)	あつー1日	
水 上 清 康 (香 野)	みよなら亭先生	



よかっぺ祭りの記録の一部を再編集した「夢風船」がNHK全国ビデオコンテストのノミネート作品に選ばれた  
収録風景(左)、中継車の前で記念写真(上) (1985/3)

## 候補作品

日立市の視聴覚センターを拠点に活躍する“ひたちビデオサロン”が、毎年日立市で実施される“よかっぺまつり”の記録としてまとめた作品。

お祭りの主催者からの依頼で30分にまとめたビデオを、コンテス

**夢風船** 5分00秒  
—'84よかっぺまつりから—  
茨城県 **ひたちビデオサロン**

ト出品のために約5分にダイジェストしたもの。この種の作品はイベントの進行を追うために、ややもすると冗漫になりがちだが、お祭りの中で市民の夢をのせて放される風船に焦点をあてて上手にまとめている。

三人で分担して撮ったビデオを

### 使用機器

- **カメラ**  
録画系機器
- カメラ Victor CVS-101  
HITACHI VCK-3000
- デッキ HITACHI VT-6800
- **編集系機器**
- 送り出しデッキ Victor CR-6600(Uマチック、編集機)
- 受けデッキ Victor CR-8200(Uマチック編集機)
- コントロール・ユニット  
Victor RM-82



試写していたら、夢風船の部分が特に感動的だったので、夢風船というタイトルをつけ、その部分を中心に編集したのだそうである。

作品をつくる人々には、その作品をできるだけ多くの人の前で発表するチャンスが欲しいものであ

る。記録をつくりたいという公共団体のニーズと、アマチュアグループのニーズを結びつければ、これから地域社会の記録や広報の活動にビデオが大いに役立つのではないだろうか。



まだまだみんな若かった！



腕章制定（木村氏寄贈）

## READERS' COMMUNICATION SQUARE



ひたちビデオサロン(茨城)

### 只今メンバーを大募集中です!!

このサークルの名前を聞いてビデオファンを自認する読者なら、フーンとお気付きになるフシもあると思う。某ビデオ誌とビデオメーカーの複合名称だからとまどってしまう。

茨城県・日立市にある視聴覚センターを本拠地にして、現在23人のメンバーが活動中なのが「ひたちビデオサロン」(以下HVSと略)である。「若い人が少なく、女性メンバーがゼロというの残念…」とくやしがるが、その活動内容は、なかなか充実している。

たとえば月1回定期的に発行されるHVSの会報。ビデオサークルを長くみているとこの毎月の会報をだすことが、なかなかシンドイ作業らしい。これで事



務局がサークル運営を頑張っている、とか、メンバーの協力体制も整っているということがわかってしまう。

その次に、自作ソフトの制作の様子をみると、『EXPO '85日立市の日』『開通！常磐自動車道』『日立夏祭り』『夢風船'84よかつまつりから』といった地元の記録を残すという『地域ビデオ』の特徴を前面に押し出したタイトルが、ズラリと並ぶ。

「地方自治体の公共機関である視聴覚センターと市民グループの当会が、お互いにGive & Takeで活動している」というサークルの特色が生きているわけだ。

では最後にPRをして戴こう。「①家庭のなかだけでビデオを楽しんでいる人、ぜひ私たちの仲間におはいりください。また、新しいビデオの世界が開けます。②女性会員を大募集しています。入会すると会にうるおいとヤリガイが生まれます。とくにカメラの前に立って戴ける方、レポーターやナレーションのできる方は大歓迎です」とのことだ。日立市近郊にお住まいの方はドシドシビデオ仲間になって欲しい。●連絡先・茨城県日立市未広町1-14日立市視聴覚センター内ひたちビデオサロン事務局 ☎0294-35-1215 担当:豊田正夫







ハンディを持つ人やその家族の作った歌を発表する「ピッピコンサート」の記録を作成（1986年9月）

毎年一般市民を対象に視聴覚センターと共催で行われるビデオ講習会



いわき路撮影会、ハワイアンセンター前の桜並木で（1986年4月）



前年のピピコンサートの記録、「メッセージをあなたに！」が茨城映像コンクールで優秀賞に  
常陽芸文センターの授賞式で（1987/3）



SONY BetaMovie  
BMC-100



1985年に共同制作した「よみがえる日立の川」が第1回の  
「ひたち映像コンクール」で優秀賞を受賞（1987/11）



1987年9月、「よかっぺまつり」会場でよかっぺテレビを開局  
会員作品の発表やステージ、マラソンなどの中継を行った

中継用のアンテナを調整する木村さん



中央ステージ前の小池カメラマン



殺生石付近で

南が丘牧場で



那須高原撮影会  
(1987/5)



視聴覚センターホール  
の大スクリーンでこの  
年の会津撮影会作品発  
表を終わって

1988年、この年から  
撮影会作品のコンテ  
ストを開始した





日光撮影会 (1989/5)



NHK イキイキビデオランド  
にスタジオ出演  
～1月放送の  
テレビ画面から～  
(1990/12)

# ビ

▼椅、熱心一ッノ



デオの場合、その作  
法がとり沙汰される  
のは、比較的新しい  
表現形態であること  
が原因としてあげられるだろう。  
ビデオ撮影は、結局、生け花や  
お茶と同じように作品としてま  
とめあげようとするなら、ビデ  
オ道」というものが存在する。  
のつけから堅い話になってし  
まったが、いま地方のビデオカ  
メラマンはどのように「ビデオ  
道」を追究しているのか？  
それを知るために北関東、茨  
城県日立市の視聴覚センターし、ビ  
デオ作品制作講習会」に一日講  
習生として参加してきた。  
取材日は、7月1日、折りし  
もNHK生活情報番組センター  
・松本豊美さんの映像作品制作  
コースの講演があった。内容は  
『作品の企画とテーマにそった取  
材・撮影の方法』。  
ご存知のように松本さんは、  
NHK番組「列島ネットワーク」  
のディレクターでいわゆるシロ  
ウト・ビデオにとっぴりとつか  
った仕事をされている方。シロ  
ウトビデオを語らせたなら日本一  
の講者だ。  
長年の現場でつちかっ持論  
が以下のように展開された。誰

## 取材レポート ●アマチュアビデオが面白い 楽しくためになるビデオ講演会！ ゼロからのスタートで極めるビデオ道 ●佐藤利夫ライター

みなさん、こんにちは！ビデオ撮影をはじめて大分経  
つけれど、全然上達しない。なんて悩んでいるビデオ  
カメラマンの皆様のためにこのレポートを送ります。

- ①画がしっかりと入りこんでいること
- ②必要な映像がしっかりと入っていること

など実例をあげて講演した。  
たとえば、ひとりのカメラマン  
が7年間をかけて、まだ続いで  
いる……ひとりの馬追いを撮り  
続けた作品。これはNHKでも  
プロの手によって別企画で番組  
をオンエアしたけれど、こちら  
のアマチュア作品のほうがすぐ  
れていた。なんていうエピソードも  
も軽妙な語り口で紹介された。  
日曜日は、家庭サークル。な  
んていうことを、いっしょに集  
った受講生は約40名、熱心な受  
講態度には、しばしば忘れてか  
いた小中学校の教室の張りつめ  
た雰囲気を出してしまつた。  
つけ加えて松本さんの講習  
で面白かったのは、地方版の朝  
刊のコラムや取材記事がテーマ  
にしたところ。いわばイメージ

トレーニングなどだが、当日に  
記事になった。ウチヨウランの  
山野草展、霞ヶ浦遠泳大会。天  
の川夢まつり。をビデオ化した  
ら、どう映像を伝達するかを実  
際にわかりやすく説明していた。  
これは、ビデオカメラマンも  
おいに参考になるはず。よいも  
のはほとんど採用している。

最後に印象に残った言葉は、今  
や映像には、プロもアマチュア  
もない……というセリフ。受  
講者もおおに力づけられたは  
ずだ。  
松本さんの講演も終わって、地  
元のビデオサロン「ひたちビデオ  
オサロン」の構成メンバーの方  
方とお話をする時間があった。  
楽しみながら映像をつくらせてい  
くという環境は、カメラマン自  
身と仲間、地方自治体の機材提  
供と親身さの二役一体でつくり  
あげるものだと、とうとうまさしく思  
った次第。映像環境は地方が、  
どうも進んでいるようだ。ビデ  
オムービーへの必要も、ついに明  
確。長時間ムービーは、いら  
ない！機能はシンプルに、画質はより

ひたち映像コンクール'90  
**自作のビデオ・映画・  
スライドを募集中！**

「ひたち映像コンクール」は今年で4回目。  
毎回アマチュアらしい個性豊かな作品が集  
まる。本年度も次のような要領で皆さんの作  
品を募集している。

自然を、人間を、社会を、そして心を描い  
た感動の作品、面白い作品をご応募ください。

**応募できる人** アマチュアならどなたでも、  
個人、グループを問いません。

**募集する作品** 映画（16ミリ、8ミリ）  
ビデオ（VHS、ベータ、8ミリ）  
スライド（35ミリ）

※テーマは自由、上映時間20分以内

**応募方法** 所定の応募票を記入の上、作品  
に添付し、9月28日までに視聴覚セン  
ターへ郵送、またはお届けください。

**賞** 優秀な作品に、賞を贈ります。

**発表** 10月27日（土）、視聴覚センターホールで  
表彰式と発表上映会を開きます。

▽応募票およびお問合せなどは、視聴覚セン  
ター（☎0294-35-1215）へ



▲センターの豊田正夫さん ▲講演中の松本豊美さん



▲ビデオも年季で使いこなすもの。ひたちビデオサロンの及川善治（副会長）さん、小林良弘（会長）さんほか石川久さん、石川残さん、橋浦貞雄さんが集まってくれた



桐生撮影会  
(1991/6)

日立市の姉妹都市  
桐生へ

地元の子どものための  
「八木節」の演技にカ  
メラの砲列



桐生ビデオクラブ  
の例会に参加

夜の懇親会で  
小室さん熱演





## ビクター水戸工場見学 (1991/4)



### ●ひたちビデオサロン発

ビクター

### 水戸テープ工場見学記

日頃使っているビデオテープの製造工場を  
ビデオサークルのメンバーで表敬訪問。

きれいな画が安心して撮れる秘訣を見てまわった。

レポート・豊田正夫さん(ひたちビデオサロン)

▶好奇心を満足させた見学会

写真ではフィルムの良しあしが画質や発色に大きく影響するように、ビデオでも記録媒体のテープによる画質の差があるのだろうか。あるとすれば、それはどのくらい違うのか。あれだけ豊富な種類のテープをどう使い分けたいのだろうか。常日頃、そんな疑問を持ちながら、私たち「ひたちビデオサロン」では、日本ビクター水戸工場の見学会を企画した。

4月15日、平日のため参加者13名とやや寂しかったが、散り始めた桜の花の下を水戸工場にお伺いした。さっそく、会議室で佐藤総務部長さんの自身たっぷりで、ユーモアにあふれた説明を聞く。その後、別室で工場案内と製品のデモテープを見せていただく。ノーマルVHSとS-VHSの解像度の違いなどを見せてもらった。さて、いよいよ工場内を見学。と



ころが、肝心のテープの塗布工程は品質管理上一般の人は入れないということで見せてはもらえず、カセットハーフの組み立て工程が中心となった。後半は、ソフトテープのコピー工場で、外国映画のダビングが進んでいた。どちらかというとこっちの方が興味深い。

ひと通り工場を見て回ってから、技術関係の担当の方を囲み、昼食をとりながら話合いをする、よりよい記録のために、磁性体の改善に日夜努力していますと、顕微鏡写真で、その違いを見せられると、なるほどと納得してしまう。

会員からは、数多くあるテープの種類をどう使い分けたいのか、性能の差が値段の差ほどあるのか、などの疑問が出された。粒子がこれだけ細かくなったから、出力やノイズが何デシベル改善されたから、と

いうデータは雑誌や広告で十分見せられているので、実際の画面上で、テープが違くと、画質がこう違うんだというところを具体的に見たかった。しかし、私たちが家庭用ビデオを使い始めて数十年、ハードの進歩とともに、テープもずいぶんよくなっている。それも研究を重ねてこられた技術者のためまぬ努力のお陰と、話を伺いながら敬服した次第。

「材料のちょっとしたサジ加減が、できあがるテープの性能に現れてくるんです」と楽しそうに語るチーフの高橋さん。「やがては家庭用にもデジタルの時代がやってくる。テープもそれに対応した、より高性能なものを開発していかなくては…」とも。私たちユーザーも、きれいな画が安心して撮れるテープを期待しています、ということで工場をあとにした。㊄





毎年、視聴覚センターで開かれる「映像文化フェスティバル」で活動大写真宣伝隊を編成、多賀の町に繰り出して注目を集めた。及川さんのチャップリンと小室さんの番場の忠太郎。(1991/11)



十周年記念テレホンカード



SONY Hi-8  
CCD-V700

# 10周年記念祝賀会

1992/5 サンシャイン常陽



挨拶される小林会長



視聴覚センター 熊谷所長





# 「ビデオ撮影心得数え唄」

作詞：小田切 亘

ひとつはネ ひとのはネ  
何を撮るのか どの範囲  
始めに決めて良いショット  
そりやそりだよネ ホントダネ

ふたつはネ  
どこから撮るのか まず歩け  
角度変われば 絵も変わる  
そりやそりだよネ ホントダネ

みつはネ  
正面からは 恥ずかしい  
ななめの方からふくらと  
そりやそりだよネ ホントダネ

よつつはネ  
子供の世界は ゆかの上  
カメラを下げて 近寄って  
そりやそりだよネ ホントダネ

いつつはネ  
真ん中ばかりに 構図をとらず  
室の入れ場所 黄金分割  
そりやそりだよネ ホントダネ

むつつはネ  
画面の拡大 近寄って  
ズームで引いては 絵が踊る  
そりやそりだよネ ホントダネ

ななつはネ  
迫り出す時 クローズアップ  
状況説明 Lショット  
そりやそりだよネ ホントダネ

やつつはネ  
遠景ばかりじゃつきなみ過ぎる  
中景 前景取りませて  
そりやそりだよネ ホントダネ

このつはネ  
はつきりしない あなたは嫌い  
何を撮るのか 欲しいのか  
そりやそりだよネ ホントダネ

とおはネ  
いつものままのあなたのように  
目線の動きでカメラ振る  
そりやそりだよネ ホントダネ

じゆういちばネ  
下手ほどカメラを 振り回す  
見やすい画面は フィックステ  
そりやそりだよネ ホントダネ

じゆうにはネ  
後からくるもの 大事にされる  
パンもチルトも 方向が大事  
そりやそりだよネ ホントダネ

じゆうさんはネ  
まずはリハーサル OKで本番  
構図にビント 動かす速度  
そりやそりだよネ ホントダネ

じゆうしはネ  
トメのカットが ショットの命  
最後の構図が 印象に残る  
そりやそりだよネ ホントダネ

じゆうこはネ  
フオローで撮る時速度を合わせ  
進む方向 広く空け  
そりやそりだよネ ホントダネ

じゆうあろくはネ  
人が動けば カメラも動く  
奥行き出るのは 移動撮影  
そりやそりだよネ ホントダネ

じゆうしちはネ  
越えてはならない 最後の線  
方向変えるなイマジナリライン  
そりやそりだよネ ホントダネ

じゆうはちはネ  
長いショットはうんざりものよ  
アップは3秒 ロングで8秒  
そりやそりだよネ ホントダネ

じゆううくはネ  
流れる時間を カットでつなぐ  
前後の関係 気を使い  
そりやそりだよネ ホントダネ

にじゆうはネ  
一つの被写体 二度で料理  
マッチカットで わかりよく  
そりやそりだよネ ホントダネ

おわりはネ  
あれこれいうより やつてみな  
始まりや止まらぬ この世界  
そりやそりだよネ ホントダネ  
(ゆっくりと)ソリヤホントダネ

(禁無断転載)

も時速度を合わせ  
広く空け  
そりやそりだよネ  
ホントダネ

カメラも動く  
移動撮影  
ホントダネ

最後の線  
イマジナリライン  
ホントダネ

うんざりものよ  
アップは3秒  
ロングで8秒  
ホントダネ

二度で料理  
わかりよく  
ホントダネ

## ひたちビデオサロンに おじゃましました

小田切さんがビデオ活動の拠点としておひたちビデオサロンに、日立市の公共施設、日立市視聴覚センターに定期的に集まり、作品作りをしたり、撮影旅行を企画したりしています。視聴覚センターには、編集機材やスタジオなど充実した施設があり、ひたちビデオサロンの会員はこの施設を使って編集作業もしています。

「ビデオ撮影心得数え唄」は、ひたちビデオサロンの撮影旅行の余興にと小田切さんが作詞したもの。それをパスの中で、メンバーの方々が練り直しなす。現在のものも、まだ完成感でなく、忘年会までには完成させたいとのこと。

「ビデオ撮影心得数え唄」の元ネタとなったのは、視聴覚センターの職員であり、ひたちビデオサロンの事務局長を担当する豊田さんが、市民向けのビデオ教室のために作ったテキストです。

今年で10年目を迎える同サロンは、この教室の出身者がほとんどです。

「カメラを持って、いると時を忘れず……」と響くのは副会長の及川さん、サロン設立当初からのメンバー、ソリヤホントダネ





奥松島撮影会(1993/5)

topic news 推定樹齡二百年

ほっこりくすのき  
堀米の樟は残った



口平の大イチョウの跡を通り過ぎ新都市広場方向に向かってまよと行く山側に向かって通っている道がある。その道

をけやき並木通り向かって歩いてくと、左側はイチョイコノド、もうちょっと歩くと駐車場になっているビルがある。このビルの道路際に通称「堀米20年くら大きなクスノキが、福地さんの敷地内、道路に沿って植えられていた。スノキは通称、通学の人たちの目をたしませてきた。一歩裏の出口が一面は良く水溜りとなんまに枝を分け下さとい人もいますが、葉がなくなるといふ事だ」と福地さんはクスノ

キがあった日々を振り返る。ほとんど変わりにくく町並み全国には堀米のクスノキと同じ運命を辿る木はたくさんあるに違いない。

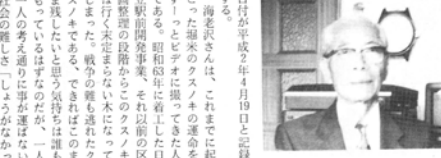
旧知の友との再会

天気晴、国道51号線を鹿島に向かっていると、車の中から見守風がほころびか春めいた感じがする。堀米のクスノキが口平から新都市東村にあるガーンゴルフクラブに運ばれたその日は冷たい雨降る日だったという。鹿神宮の境内を通り、堀米を過ぎてから国道125号線にはいる。少し走った頃、ガーンゴルフクラブの看板が道先案内、道路は舗装されているものの結構せまい。クスノキを植込んだ穴だらけの道とながら現場まで運んだというのを知ると、元気で増やしているだろうか。ヨーロッパ感覚の煉瓦造りのおしゃれなクラブハウスの左側面に「あつたあつた」太い幹が

えたんです。根ノから心配したんです。もう大丈夫でしょう。こになられたしゅう。お家さんの評判いいです。「じい木ね」って、枝が伸びるまではいかなるでしょう。最近このクラブハウスが車のコーナーにもよく使われるんですけど、いつもクスノキも出展します。(笑)

樹齢を逐一映し出す画面から何故か木の痛みが伝わってくる。大木は人間社会とどのように関わっているだろうか。どんな心境だろうか。まさに海老沢さんのナレーションの想い出すまで一週間、最後の日は10時が刻限になつていきました。出来たの重量物です。また交通量の少ない夜中がよいと交差点の少ない、雨がまたなんとも思い難い淋しさがね。やんとも思い難い淋しさがね。やんとも思い難い淋しさがね。やんとも思い難い淋しさがね。

日平が平成2年4月19日と記録する。海老沢さんは、これまでに起こった堀米のクスノキの運命をずいっとビデオに撮ってきた人である。昭和43年に着工した日立駅前面開発事業、それ以前の日立駅前面からこのクスノキは行く末定まらない水になってしまった。戦争の難も送れたクスノキである。できれば私も残したいと思う気持ちは誰ももっているはずなのだが、一人一人の考え通りに事が運ばない社会の難しさ一しうがなかつた。



日平が平成2年4月19日と記録する。海老沢さんは、これまでに起こった堀米のクスノキの運命をずいっとビデオに撮ってきた人である。昭和43年に着工した日立駅前面開発事業、それ以前の日立駅前面からこのクスノキは行く末定まらない水になってしまった。戦争の難も送れたクスノキである。できれば私も残したいと思う気持ちは誰ももっているはずなのだが、一人一人の考え通りに事が運ばない社会の難しさ一しうがなかつた。

「あつたあつた」太い幹が、クスノキに対する思いと「こういふこともあったんだ」という事を記事に残したいとビデオを回した。4月19日、分かれの幹の、枝が切り落とされた。樹齢を逐一映し出す画面から何故か木の痛みが伝わってくる。大木は人間社会とどのように関わっているだろうか。どんな心境だろうか。まさに海老沢さんのナレーションの想い出すまで一週間、最後の日は10時が刻限になつていきました。出来たの重量物です。また交通量の少ない夜中がよいと交差点の少ない、雨がまたなんとも思い難い淋しさがね。やんとも思い難い淋しさがね。やんとも思い難い淋しさがね。



## 喜多方撮影会 (1994/5)

煉瓦工場の前の道端で車座になって乾杯！  
これぞ撮影会の醍醐味



▶会長、副会長から幹事の順番についてなど、運営事項が伝えられる。一環はしやかに進めるが、テーマ的な話までしてチームの雰囲気が！

### 作品の上映と 審査を開始！



▼日本の作品に親しみ始めるメンバーもある。自分の作品は1作に決まるといって、ひとりで頑張ります！

▲事務局でつづらねられたい話から10分、15分、20分の長手までの構成から写して撮影、自撮り少ないものから上映する

▲中絶の場所でも撮ってビデオキャパは、3巻の小林さんの話。撮影は「ビデオキャパ」4巻から。ビデオキャパは「ビデオキャパ」です

▲会場に集まって参加者のビデオテープも各巻よりたくさんの中継。撮影の途中で

●観望者が撮影用紙の書き方を説明し、自分の作品は1作に決まるといって、ひとりで頑張ります！

●観望者が撮影用紙の書き方を説明し、自分の作品は1作に決まるといって、ひとりで頑張ります！

●観望者が撮影用紙の書き方を説明し、自分の作品は1作に決まるといって、ひとりで頑張ります！

●観望者が撮影用紙の書き方を説明し、自分の作品は1作に決まるといって、ひとりで頑張ります！

●観望者が撮影用紙の書き方を説明し、自分の作品は1作に決まるといって、ひとりで頑張ります！

●観望者が撮影用紙の書き方を説明し、自分の作品は1作に決まるといって、ひとりで頑張ります！

●観望者が撮影用紙の書き方を説明し、自分の作品は1作に決まるといって、ひとりで頑張ります！



VIDEO CLUB DATA	
●活動日時	毎月第3日曜日 13時30分～
●会費	年会費5000円
●連絡先	〒316 茨城県日立市末広町1-14 日立市視聴覚センター内 ひたちビデオサロン 事務局 豊田正夫

前列右から3人目が会長の及川さん。後列左から4人目が事務局担当の豊田さん。後列右側が編集部のメンバーです

●観望者が撮影用紙の書き方を説明し、自分の作品は1作に決まるといって、ひとりで頑張ります！

●観望者が撮影用紙の書き方を説明し、自分の作品は1作に決まるといって、ひとりで頑張ります！

●観望者が撮影用紙の書き方を説明し、自分の作品は1作に決まるといって、ひとりで頑張ります！

●観望者が撮影用紙の書き方を説明し、自分の作品は1作に決まるといって、ひとりで頑張ります！

行って来ました  
見て来ました

## ビデオクラブ 訪問記 第3回 ひたちビデオサロン (茨城県日立市)

自分の作品は1位に投票する  
ユニークなコンクールを実施！

ひたちビデオサロンは、茨城県の日立市視聴覚センター内にあり、毎月第3日曜日に開催されている。今年も「ビデオキャパ」コンクールを実施し、ユニークな企画が話題となっている。今回は、観望者が撮影用紙の書き方を説明し、自分の作品は1作に決まるといって、ひとりで頑張ります！





第1回の会員作品の公開発表会を開催（1995/12）



SONY 3CCD  
VX1000



湯西川撮影会（1996/6）

# 愛の募金

茨城新聞文化福祉事業団

日立市末広町のひたちビデオサロンと及川春治会長が一万三千二百六十六円、十一月に同町の市視聴覚センターで行った96映像文化フェスティバルで募金活動を行った。サロンの上原稔



副会長、視聴覚センターの豊田正夫係長と写真左からIIが届けた。

## 映像文化フェスティバルで行ったチャリティー カラオケ道場の益金を愛の募金に寄付 (1996/12)



### ステップアップ



去年・今年と2年連続で茨城県芸術祭小型映画・ビデオ祭で優勝を受賞  
HVSひたちビデオサロン 会長

### 上原 稔さん

ひたちビデオサロンに皆さんどうぞ。楽しいですよ。

いやー、昨年は出し抜けに優勝をもらってしまつてびっくりしました。という上原さん今年も引き続いて賞を獲得した。聞くと上原さん、今年で結成15年という、HVSひたちビデオサロン（事務局・日立市視聴覚センター）の会員で会費をつとめているという。入会したのは昭和63年、今年で9年目。「家内に定年退職後は何をやるのなんていわれませんが、将来孫もできるしということで入会したんです。でも本腰をいれたのは、動機を聞いた二三年前からです。始めをした時はなかなか作品は作れませんでした。会のメンバーは現在30名、毎月一回定例会を行っている。「それぞれの作品をもってきて、批評しあったりしてらんです。仲間は結構まじびしいですから切磋琢磨するのにはいいんです。コンクールで賞をとっている人、おおいですよ。」

上原さんの今年の作品は、会



の撮影旅行で撮った富士山、タイトルは「五月の空に輝く雲峰」。今回ののは、はじめは全然出すつもりはなかったんですが、グループ展で2位になったので、それでは出してみようかと。富士山という被写体に対する思い入れが良くできているというのが審査員、パツクに流れる朗々たる詩吟は奥様のお父さんの中井川謙二郎さん、美しい富士山をより鮮明にする。昨年作品「水戸・八景」のプログラムにも詩吟がつかわれていた。八景の石碑と詩吟：効果がさえる。「5年ほど、せうか家内とも一緒に旅行してきたのだからということで、まとめてみようかと思つたんです。詩吟は親孝行」（笑）。

20歳頃からステールカメラをずっとやっていたという上原さん、ビデオの魅力はまた別だという。「ええ、白黒映像とかひきのわしなども自分でやっていたんですけど、カラーはそういうわけにはいかないので、なんか物足りなさがあったんです。全部自分でやりました。その点ビデオは全部自分でやらなければなりません。脚本、演出、音楽、ナレーションも」。上原さんが作品作りでポイントとしているのは第3者がみても喜ぶもの、美しいものは美しいんだと納得させるもの、全体を通してあきさせない、ストーリーがあるなど、「どこで打ち切るか」というのが、結構難しいんです。短くてもいいないない、もつとみたいな」というのがいい長さと私は思っています。10分以内、今のところ10分以内で作っています。

今年の入賞、A賞は11月9日映像文化センターで、その後も、22日には表彰式が行われ、

「五月の空に輝く雲峰」の場合は5時間、フィルムを8分45分に縮めました。だから大変なんです。短ければ短いほど難しい。とつてきたものを全部みて縮むことを考えて、内容はナレーションになってくるんですけど、資料などを集めて、自分の感想などをいれて文章におおてワープロを打つて、いざ書き込んでいくなればなつた、とちやうど、何回もやり直さなければ、発音がままたちやうど、何回もやり直し、それからマッシュした題名の付け方がこれまた難しい。作品作りの苦労を話すと上原さんだが、それがいいから楽しそう。

近ごろ上原さん、いそがしくなつてきた。あんなに撮影が盛まっているから、個人からの依頼もあれば、公的な依頼もある。編集も上原さんがすることが多い。「ある程度みとられたものなら、日立市の花いっぱいコンクール30周年記念、花いっぱい町づくり」がある。13分程度の花壇作りのプロセス。これは貸し出し予定されている。私は我流が、この程度の實力でもいいという人には是非協力したいという上原さん。

62歳と5か月、退職後はビデオA、再就職をする気はない。目下はいい仕事用ビデオテープ、2台、再就職をする気はない。笑う。のめり込みの度合いがかなり。ビデオは性にあってるんでしょ、おもしろくてねー、人との交流もできますよ、やめられないですよ（笑）。

## タウン誌「スペースマガジン」(1997/12)



富士五湖撮影旅行  
(1997/5)



# 15周年記念大忘年会

(1997/12. 里美村 中野屋)



司会の田光さん



小室さん



弓野さん



HVSのお大尽  
が勢ぞろい？



佐渡ヶ島撮影会 (1998/5)



佐渡へ向かう  
フェリーの船室

大佐渡スカイラ  
イン展望台



尖閣湾を望む旅館の前庭



二日目もバスを戻して名残を惜しむ

思い出を刻んだ箒川



## 紅葉の塩原温泉撮影会 (1999/11)

逆光の中で





ひたち海浜公園ミニ撮影会 (2000/3)

ひたち映像コンクールの  
受賞者と審査員を囲む会  
(2000/3)



初夏の鎌倉撮影会  
(2000/6)





ひたち映像コンクール発表  
会にあわせ「ビデオグル  
ープ交流会」 (2001/2)

2001年5月からグループ別研修会始まる



ノンリニア編集グループ



パソコン入門グループ

海老沢ご夫妻  
がNHKに生  
出演(下写真)  
(2001/2)



は、「慣習」を打破して、新しい文化を創りだす。これは、日本の歴史を振り返ると、繰り返されてきたことである。海老沢公さん、夫人は、この精神を、現代の文化に活かすべく、努力を怠らないうち、NHKの番組「第二の人生いきいきインタビュー」に出演した。その模様を、この雑誌で紹介する。

プロダクションのビデオ編集装置

「第二の人生いきいきインタビュー」は、NHKの番組で、多くの人の人生を、テレビを通して紹介している。海老沢公さん、夫人は、この番組に出演して、自分の人生を、多くの人に紹介した。その模様を、この雑誌で紹介する。

「第二の人生いきいきインタビュー」は、NHKの番組で、多くの人の人生を、テレビを通して紹介している。海老沢公さん、夫人は、この番組に出演して、自分の人生を、多くの人に紹介した。その模様を、この雑誌で紹介する。

＜第二の人生いきいきインタビュー⑧＞

**海老沢公さんに聞く**

レンズを通して歴史を残したい  
佳作の人生に誇り

編集部(日経) 中島啓介・(電研研) 下河邊伊久夫

「第二の人生いきいきインタビュー」は、NHKの番組で、多くの人の人生を、テレビを通して紹介している。海老沢公さん、夫人は、この番組に出演して、自分の人生を、多くの人に紹介した。その模様を、この雑誌で紹介する。

「第二の人生いきいきインタビュー」は、NHKの番組で、多くの人の人生を、テレビを通して紹介している。海老沢公さん、夫人は、この番組に出演して、自分の人生を、多くの人に紹介した。その模様を、この雑誌で紹介する。

雑誌「ぱんぽん」に8頁にわたる紹介記事(2000年10月号)



上高地・乗鞍撮影会  
(2001/10)

カメラマン十人十態  
乗鞍岳中腹で



茨城県芸術祭  
映像コンクール  
発表会

2002 年度発表会入賞者の紹介

2001 年度発表会  
に集まった会員

(どちらも茨城県民文化センター)



JVA全国交流会日立大会  
ホテルサンガーデン日立  
(2002/4)



乾杯は関さん

新調のユニホームで  
受付



全国から  
アマチュアビデオ  
オカメラマン  
97人が大集合



弓野さんのマジック

麦畑を熱演の橋浦  
さんと及川さん



平成14年3月号

定年時代

茨城全域の朝日新聞に折り込んで20万部

(4)

「自分が探してきた」年以来毎年出品して入  
ネタを磨き上げること。十三年度  
が私の生きがい」と言。芸術祭では、環境汚染  
い切るのは、定年生活に侵された私の最後の  
五年目の滝孝光さん  
(65) 日立市  
会社でPR用カタログ  
〇〇歳と隠れ、が最後  
グやビデオ制作に携わ  
秀賀を受賞した。  
ったのが発端。企画か  
ら編集まですべてを一  
人でできビデオ制作  
イマで、由緒あるコン  
は魅力がた。最  
も苦労するのがテーマ  
「目標」と滝さんの夢は  
限りない。  
ゆる情報誌、ロコミな  
ドアンテナを巻く。テ  
イマがいつかどと関係  
の冠婚葬祭や市内の各  
資料を集め、取材にと  
りかかるとして、撮影  
対象へ音楽、ナレーション  
を添へ思い浮かべな  
がら台本を書く。こ  
の台本が出来上がった  
後は撮影するだけ。す  
でに制作した作品数は  
二十一本。制作中のの  
のが三本ある。「佐渡  
の日蓮」しおばら文  
学社行、「働く喜びを  
求めて」など幅広い。め  
ている。  
茨城芸術祭映像コ  
ンクールに、平成十一  
年(1999)

ビデオのプロに  
定年自 日立市の滝さん(65)

私の定年後



滝さんの活躍を紹介する新聞「定年時代」





尾瀬・桧枝岐撮影会 (2002/10)



お祝いのダンスは小室さんと及川さん



なごやかに二次会

20周年記念大忘年会  
ウエルサンピア日立  
(2002/12)



## 会員の記念文集

### 私のビデオ才歴

石川 久



私が映像に興味を持ったのは(私でも映せるわ)のテレビコマーシャルが盛んに行われていた、8ミリフィルム時代である。其の頃は、編集も何も考えていない撮りっぱなしの、映ればよい、家族や友人の動く姿が映ればよいと思つて撮つていた私でした。その後数年過ぎてビデオカメラが出現し、私はHi8のビデオカメラとビクターの小型デッキ(VHS)を購入し、小型デッキを肩にかけ、カメラを持つて撮影に出かけたものでした。それはそれは重装備で大変でした。好きでなければできない姿でした。

ビクターの小型デッキはポータブル型最小型デッキでした。其の頃は日立のカメラはCCDではなく、MOSと言う素子を使用していました。その後ソニーさんが開発した、CCDが主流となったカメラがどんどん出るようになりました。

編集も私なりにデッキとデッキを接続し編集をしておりました。丁度其の頃日立市報の記事の中に多賀の視聴覚センターでビデオカメラの講習会があるのを見て申し込み、豊田さんの講義を受けました。そこでビデオサロンと言うグループがあることを知り入会したわけです。

入会して初めて、私が今まで撮つてきて編集したものが幼稚であったことを知り、先輩の方々に色々とご指導頂き、編集作品を見せていただいて、何とか人並みのことができるようになりました。



私は二十年の永い歴史を持つビデオサロンに入会したことを誇りに思っています。今後ますますパソコンによるノンリニア編集が盛んになると思います。今後ともご指導よろしくお願いいたします。

ビデオサロン二十周年記念おめでとうございます。

## ノンリニア編集苦労話の思い出

石川 誠

パソコンに目覚めたのが今から六、七年前の頃と思います。当時は何もわかりませんから、メモリーとは何かCPUとは或いはHDD、GB、PCIバス等、何の意味だかわかりませんでした。そこで千葉県の幕張メッセでパソコンの展示会があると聞いて見に行ってみました。メモリとはこれか、とか、HDDはここに付けて、こんな役割をするのか等一般的な知識と、必要な部品の名前を勉強してまいりました。

その後パソコン展示会場には三、四回位通いました。それでもまだパソコンを操作する勇氣はなし、自信ありませんでした。その内に藤来さん、滝さんがノンリニア編集を始めたと聞いて、二人に例会ごとに、指導を仰ぎ、何とか操作の自信がついたので皆さんより一年遅れてVAIOを購入しました。

購入してからの苦労は皆さんのご想像にお任せします。現在でも知らないことが山積しているので、皆さんのご指導を仰ぎながら、共に勉強していきたいと思っています。



## ビデオ雑感

伊藤 廉

初めて手にしたビデオカメラがVHS-Cだったからビデオ歴は十年以上になるが、ビデオサロンに入会したのは四年ほど前である。ビデオ雑誌を購読して一応の知識は身につけていたつもりだったが、例会で諸先輩の作品や蒔蓄に接してみて、活字だけでは得られない情報も多いことを知り、随分勉強になった。その後の自分のビデオ作品にも大いに活用させていただいた。

会員諸氏のビデオ作品の多くは他人に見せることを考えたストーリー性のものであるが、私の作品は旅行、孫の成長、絵画展、結婚式の記録など、個人的あるいはごく内輪のもので、他人に見せることを前提にしないものばかりである。そんなこともあつて例会には滅多に出品したことがない。その結果、これまで専ら情報の「take」ばかりなのが心苦しいところである。これから少し暇ができるので、これまでと違った行き方も考えてみたいと思っている。

## 山歩きとビデオの楽しみ

井村 泰也

先輩方の長年の努力で築かれた二十周年を記念して、若輩ながら、感想を述べさせて頂きます。先輩方は、8mmフィルム映写機に始まり、アナログ・テープ、DVテープ、DVDの変遷を体験さ



れ活躍されており、敬服致します。視聴覚センター内の機器展示を拝見すると、歴史の重みを感じます。

定年退職後、日立市報を見て、ビデオ教室があることを知り、二日間受講しました。講師はひたちビデオサロン(HVS)の大先輩である海老沢さん、豊田さんに手ほどきを受けました。約二十名受講し、内二名がHVSに入会しました。このときが私の「ビデオ制作元年」です。HVSへ入会后、先輩方より見聞きすることが全て新しく、興味津々で、貴重な体験をさせて頂いております。

ビデオの撮影と楽しみは、日立自然友の会に入り、山歩きなどしながら自然観察をし、およびテニス同好会で健康維持のため週三回テニスをし、この仲間と春、

秋には旅をする時に撮影をしています。この編集をしたビデオを仲間達に映写公開して楽しんでます。また、イベント(ピアノの発表会、ミュージカルなど)的なものを、撮影し編集しています。

HVS撮影会は、先輩に教わりながら撮影するのも勉強になり、またたのしみです。「尾瀬・檜枝岐」の撮影会では、尾瀬の自然と紅葉は格別で、その時の思い出の自分の写真を一枚添付しておきます。

今後は企画、構成、創作を加え、コンクールにマッチするビデオの制作に挑戦したいと思います。編集方式もリニヤからパソコンを使用したノンリニヤ方式にも挑戦したいと考えています。

HVSでは、会計幹事をして、先輩の方々に教えて頂きながら、少しでも貢献したいと思っています。



## ビデオ わが人生



ビデオとの出会いは昭和六十三年視聴覚センターのビデオ講習会に参加したのがきっかけで、小池先輩や顔見知りの会員の人の良さに親しみを感じ入会したことを覚えている。入会はしたが定年までは撮影や作品作りは何も出来ず、平成八年作品第一号を県芸術祭に出品、優賞を受賞し、次の年、市役所の公園緑地課の依頼により「花いっぱい運動」、県庁生活文化課の依頼で「大好きいばらき県民会議」の事業報告の記録を担当し、六年目に入っている。

平成十年茨城県青年の船の撮影隊として小田切、小林両氏と共に中国へ、十日間若者と共に暮らした思い出は今も数人と続いている。ビデオカメラや編集技術もアナログからデジタルと時代に追従しボケ防止の一助となるように体調不良のハンデを気にせずこれからもマイペースで我が人生をビデオと共に全うしようと心に決めている。



上原 稔

平成 10 年度茨城県青年の船の甲板で



## ひたちちビデオサロン

### 二十周年記念に寄せて

海老澤 公

映像の好きものたちが集い、ひたちちビデオサロンがここに二十周年の記念すべき今日を迎えることができ、喜びを皆様と共に心から祝福させていただきます。小生の入会当時（昭和六十一年）頃は十五、六名の会員も、今は四十四名の大グループに発展し、毎月の例会には勉強会、作品の発表、また年に一度の宿泊撮影会は会員相互の親睦を深め、年間行事の楽しみのひとつになっています。

宿泊撮影会の中には楽しさのなかにもハプニングなども残され、数年前の「秋の塩原撮影会」には小生が撮影中行方不明の事件発生、川の中に落ちて流されていくのでは？ 会員たちは撮影を止めて全員「箒川」の上流、下流から川底までを捜しつづけ、やがて日暮れになつても見つからず、警察へ捜索願いを提出するとの直前、小生は川伝いに撮影をつづけながらホテルまで歩いて行きロビーでみんなの来るのを待っていたところへ会員からの電話連絡、健在が確認されて事件は落着き、続く懇親会には今日の出来ごと、心配しながら捜し求めてくれた会員諸兄の真剣な顔、話はいつまでもつきない。このときほど人の情けの深さをしみじみと感じたことはありませんでした。会員諸兄に心から感謝するとともに、報いるためにも、前進をつづけるひたちちビデオサロン発展のためにも更に努力してゆきたいと念じています。



## ひたちビデオサロン二十周年記念によせて

及川 春治

ひたちビデオサロン二十周年記念を迎えて、誠に御目出とうございます。顧みますと、私は会設立から一年遅れて一九八三年（昭和五十八）年一月に入会させて頂きました。以前は写真に興味を持ち、カメラ店に勤務していたこともありました。

当時の写真はモノクロで、自宅で引き伸ばしなどをして楽しんでおりましたが、部屋中薬品の匂いが満ちていました。また、廃液の処理を下水に流し込んで市から注意を受け一時中断しましたが、日立で始めてビデオカメラを手にとつて見てこれからは8ミリ映写機に代わつてビデオカメラの時代だ」と思い価格の高いビデオカメラを借金をして買い求め、民謡の発表会などを撮影して楽しんでおりました。

丁度その頃、日立市報にひたちビデオサロン案内の記事が目止まりこれは、私が求めていた止まり木だど直感し、早速視聴覚センターに出向き、その場で入会させて頂きました。それからは会員の方と一緒に学び、語らい、この会の発展を夢見ながら人生を楽しく生きようと考えました。これが私のひたちビデオサロンに入った動機です。

この会が設立してから二十年、月日の流れは早く感じられました。ひたちビデオサロン二十年の年譜を拝見するたび走馬灯のように、あんなこと、こんな事があつたと色々な想い出がつきません。







その中で特記することは、今まで人前で話をするかもしれない私が一九九四(平成六)年、会員皆さんの薦めで会長に推されたことでした。その時の副会長でありました海老沢さん始め、会員皆様の大変な御協力を頂き二年間の大役を大過なく勤めて頂きました。ここに改めて感謝を申し上げます。

その中で忘れられないのが、この年譜にも紹介されていますが、一九九五(平成七)年十月、学習研究社発行、月刊誌「ビデオキヤパ」に、ひたちビデオサロンが掲載され、全国に初めて私達の活動が紹介されたことです。

また、会の活動は趣味活動ばかりでなく、地域社会に役立つ催し物など記録に残す為に多くの行事に参加してきた事は、今日の会の発展のための一つの歩みになったと思っております。

今後とも会員皆さんと共に、ひたちビデオサロン益々の発展の為に努力し、協力していきたいと思っておりますので、宜しくお願い申し上げます。

## 私の記録と動機

大竹 七衛

四十五年前に会社の山岳部の総会で、あるアマチュア登山家の先輩が大学時代に撮った映像で、北アルプスを紹介された。山岳を目ざしていた、若い我々は北アルプスのすばらしさに胸を打たれ、感動したことを覚えている。それは何故か。我々には未知の山々、行ってみたい山々が、当時細かく撮影記録されていたからである。

当時の撮影・記録のすばらしさをじっと胸に秘めて、四十五年後の自分が8mビデオを手にし



て、記録として残したいものは趣味の一つでもあるが、その時代の記録である。上手下手は別として、自分なりに残しておきたいこと、家族・親族の記録、ふる里の記録、楽しかった、悲しかった、苦しかったことなど等々、残すことが多くあれば、将来の素晴らしい財産の様に思われる。下手ながら機会をみては記録している。一つのビデオ撮影で、後日みんなで見つて、楽しく、おかしく、笑つてみることに、「酒の肴」にされ、これ又楽しいひとときである。

## 定年後の趣味はビデオ

鎌形 進

現役時代も社内旅行でビデオ撮影をしていたが、映像が安定せずとても他人に見せられなかった。そんな時、日立視聴覚センターのビデオ講習会を受講しており、「ひたちビデオサロン」の存在を知り入会した。

孫が生まれ、その成長過程を撮り、幼稚園、小学校の発表会、運動会では事前にプログラムを渡され、いろいろ注文も多かった。ところが中学、生、高校生になると撮影を嫌がるようになった。孫はどんどん成長するが、カメラマンの腕はまったく成長せず、むしろ老化だけ進行している現状だ。

今年九月脳梗塞が発見され、なんだか力もなくなつたみたいだ。これから皆さんに観てもらえる映像ができるかどうか分かりませんが、少しずつ頑張つて行きます。今後とも、皆さんのご指導をよろしくお願い致します。



## ビデオカメラに振り回されて

小池 金治

昭和六十一年八月定年を迎え、私は何故かビデオの世界にはまり込み、ビデオカメラ（VHS—C）やビデオデッキも十日後には購入した。あとは自由の身、夢中でカメラを回した。対象は何でもよかった。

NHK学園ビデオカメラ教室を知り、早速申し込み通信教育をうけた。翌年七月まで五回の課題作品を提出した。最後は作品コンクールがあり、夢想もしなかったが入選し「準特選賞」を頂いた。

その年の十月、NHK学園中国学習の旅（九泊十日）に参加、香港・広州・昆明・桂林・北京の名所旧跡を回った。私達のビデオグループの同行講師は、原一民先生であった（海老沢さんと御一緒でき有り難かった）。先生からは撮影の基礎、音声の大切さ、例えば移動中のバスガイドの説明は、撮影は止め声のみ撮る、ハニ族の踊って歌う舞台撮影は音を切らずに撮影するなど。また宿に帰ってからは、先生持参のモニターテレビで各人の添削指導もして頂くなど、先生には大変お世話になり、勉強になった。

私は、NHK学園の催しに参加し、こんないろいろな体験と勉強ができたことを大変幸せだったと思っている。

帰ってから感想文を求められ、NHK学園海外学習の旅「感想文・作品集」に収録されたのが次章の拙文である。ビデオ一年生の感想文として見て頂ければ幸いである。

中国ではホームビデオカメラは、大変珍しい存在のようだ。人込みの中で撮影をすると珍しげに人々が寄つて来る。その人達にファインダーを覗かせると何時までも見ている。更にテープを戻して再生画像を見せると、声をたてて喜んでいた。然し残念ながら時間が無く、切り上げざるを得なかった。

今回の学習の旅で、ビデオカメラグループにとっては、総じて時間が足りなかった。特に故宫や天壇等豊富な歴史と、建造物の多い所では、ガイドの説明と映像は不可分であるが、その余裕は無い。ガイドの説明を一寸聞いては、カメラポジションを探し撮影する。一カット二十〜三十秒と思うが、終わった時にはガイドの姿はそこに無く、別の所に行っている。天壇公園では気付いたら回りに同行者はだれも居ない。真つ直ぐに延びた歩廊の彼方はかすんでおり、遠くの人は豆粒位に見えた。一瞬ギョツとした。迷子ならぬ迷老一人誕生かとさえ思った。

開団式の際、原先生が「ビデオグループは、苦勞もしたが一番お土産が多いはず」と御あいさつされた。帰つてみると約三十時間(テープ約三十巻)に及ぶテープは相当なものであった。再生画像を見て、それが何処の何であったか、全然思い出せないものが幾つかは出て来た。現地での撮影記録を怠つたツケを帰つてから払わされた。従つて全テープの整理(作品)にかなりの時間がかかった。

結局、終始ビデオカメラに振り回され、自分を忘れた旅になってしまった。然し、今回は学習の旅であり、広大な中国を見、肌でふれ、テープに記録出来たことは、大変幸せであった。又先生に直接手をとつて教えて頂いたことは、何にも増して貴重な体験であった。



## 思い出

小林良弘

ひたちビデオサロンが産声を上げてからまもなく二十歳を迎えます。昭和五十七年一月二十四日、設立準備委員会のもとで発足し私が入会第一号でメンバー十六人でした。少ないながらも楽しい我が家の感じをうけました。

当時のビデオカメラは高価で私には高嶺の花、小使いを蓄えながら一方で技術やテクニックを身に付ける事で入会しました。

その後、初めての撮影会が計画され三度目の正直で実現の運びに。行き先は筑波山。茨城の名峰の撮影会に到着き思い出深い行事の一つでした。

また、宿は東電(鈴木静氏)の協力で神社門前の江戸屋になり、夜はビデオサロンならではの宴会が深夜まで続きました。これも若さがそうさせたのでしょうか。その後の事についての記事は以後の入会者に任せることにして筆を下ろします。ここに歴史の一頁が飾れば嬉しい限りです。

## ひたちビデオサロン二十周年に寄せて

小又力博

私は入会九年目になります。思えば何も解らなかつた入会当時、先輩の方々に種々教えられ、一つの作品を制作するのにカット、ナレーション、BGM入れ等、苦勞と完成の喜びを味わいました。





入会の動機は旅行の思い出を残す作品作りでした。これからは自分史を制作したいと考えています。

現在は会員も多くなり、幹事の方も大変ご苦労と思いますが、会発展の為にご尽力ください。

## ハプニング

小室 政衛

早いものでひたちビデオサロンに入会して十年以上になります。今のカメラは四台目、最初のはVHS一体型で重かった。子供のサッカーの試合に、お父さんがビデオカメラを買ったから撮影してくれるだと、同級生に自慢していたが、いざ撮影が始まって十分も過ぎるとファインダーが暗く何度スイッチを入れても映りません。すぐ電気屋に来てもらっても駄目でした。夜電話がありバッテリーがオーバーとの事でした。次回も同じ故障で四回目ですと正常になり撮影が出来子供にあやまりました。

二台目はS・VHS・Cで小型で軽いのですが、録画時間が短く祭りではバッテリー、カセットと大変でした。二台目もハプニングが発生。諏訪ふるさと教育で水穴にビデオを持って入り撮影が終わって外に出て見るとレンズが曇って何も見えません。これは温度差であると思っていたが、二〜三日過ぎて撮影に行ったのですが、スイッチが入らず又も修理に出しましたら水滴が入ってICを破損したのです。カメラを持ち歩くと色々なことがありますね。

ひたちビデオサロンも二十周年を迎えます。入会して同じ趣味の仲間が出来、人生が楽しく、撮影に出掛ける今日この頃です。第一にストレス解消になるし、撮影は良いアングルを選ぶた



め足腰が丈夫になりました。ただ一つ悩みは、パソコンが出来ないことです。

## 充電

佐藤 たけつぐ

ビデオサロンに参加して十五年余になります。趣味の集いのビデオサロンで人との出会い、作品作りにとまことに充実した生き甲斐を感じています。

北は北海道から南は沖縄まで名所旧跡を尋ね、旅の道連れに必ずカメラを持参して撮り捲りました。その結果、思い出の詰まったテープが押し入れに沢山積まれる結果になりました。

外国旅行の際にもカメラを担い、イタリヤ、ドイツ、フランス、英国と撮り捲りました。

宿で充電するのにお国柄の違いから、サイクルの違い、ソケットの違いがあるので自前の変圧器や国毎のソケットを用意して出発しました。空港の検査でカバンの中の変圧器を異常な目で咎められ、余計な時間を浪費しました。

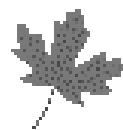
ドイツのホテルでは充電しようとして持参のソケットが合わず、ホテルの従業員に聞くも埒があかず、聞くところによるとドイツは企業によってソケットが違うとのこと、結局添乗員のおばさんと、夜のドイツの街を電機店を探して彷徨い歩き、やっと街外れの電機店を見つけ、年老いた店番の主人と添乗員のおばさんの通訳でソケットを購入し目的を果たした思い出があります。

尾瀬旅行にも二度カメラを担いでかけました。長蔵小屋で一泊し充電しようとしたが、部屋にソケットの挿入口がない。探した結果廊下の端に一ヶ所見つけた。長蔵小屋は自家発電で夜は九時までしか電力使用ができないとのこと、十分な充電ができなかった思い出があります。

秋の景 杖を倒して撮りにけり

秋の景 ズームインせし露天風呂

秋を撮る 少年のごと ときめけり



## 発想転換

嶋之木 誠一



私がビデオカメラを手にしたのは、退職の記念に贈られたもので、当初は何もわからず困惑していたところ、HVSのクラブがあるのを知り、早速入会させてもらいました。会員の方々からいろいろと教わり、なんとか会員の皆様についていけるようになりましたが、作品の提出はあまりよくなく、反省しております。

提出が少ない理由は、編集機器の設置が面設置のため、その都度機器を並べ配線をし、始まるまでに時間と手間が掛かるため、面倒になり、あまり熱が入らなかつたからです。

さて、今年はHVSクラブ発足二十周年にあたりますので、これを境に編集の発想転換をし、今までの面設置から、立体設置にすることにより、機器を並べたり、後片付けなどがなくなり、手間が省け、今までと異なり編集にも熱が入ると思います。今後これをうまく活用して、作品作りに頑張りたいと思います。





## 北の旅

菅原喜一

大正生まれの七十七歳ですが、還暦過ぎて始めたプレスの仕事が、結構忙しくて、日曜日も機械のお守りでなかなか例会には出られません。

顔写真ですか、まあ自分の面で見入ったのといえはこの写真しかないですね。このときはちよつと感動しました。富良野プリンスホテルのすぐ近くです。「北時計」つてどこにあるのかなと思つて探していて偶然に見つけました。

娘と二人で、もう一切合財、カメラ二台とビデオだけ持つて、一週間くらいあつちこち歩き廻つて、「北の国から」のロケ現場を全部訪ねて歩きました。良い旅だったなあと思います。日付が十二年になっているからもうおととしのことです。ニコンの





カメラで撮りました。

ハイビジョンカメラもできましたね。時間があればビデオもやりたいが、最近はどこらかという  
と後処理が簡単なスチール写真の方が多そうですね。来週はお台場まで Photo Expo 2003を  
見に行く予定です。(談)

## 二十周年を迎えるの決意

鈴木 静

ビデオサロンの二十周年心よりお祝い申し上げます。

私も当初から関わっているため、自分自身の在籍期間も二十年を迎えます。入会のきっかけは  
子供の成長記録から始まりましたが、最近では作品の作成がとどこうつており反省しきりです。日  
立の居住区を離れひたちなか市に移り住んで早十八年になり、現在は地域活動に深く関わって  
いるため、例会への出席率が低迷しております。今後は、撮影することはもとより一回でも多く例  
会に出席し、活発に活動され各種コンクールに数多く入選されているみなさんの撮影・編集技法  
を習得して、作品制作に精進したいと考えています。



## 私とビデオ

鈴木 隆

私が写真を始めたのは中学生の時、叔父に借りたカメラで撮影し、押入れの中でモノクロ写真を現像し作品発表会に出していた。ある時に、定年後に無趣味でも困ると写真に再度挑戦したが、これからはビデオの時代と考えて思い切つてビデオカメラとデッキを購入した。セパレート型で、2kgのカメラ部を肩に乗せ、4kgのデッキ部を肩に掛け、三脚を含めると約10kgを額に汗をかきながら日光キスゲが満開の尾瀬沼を木道から足を踏み外し、木の根につまづいたりしながら一周したのが昨日の様に思い出される。当初は全くの自己流で目が廻る映像が多く、人に見せられなかった。「これでは何とかしなくては」と「ひたちビデオサロン」に入会したのである。(これは今でも直っていない)

一方、旅行には必ずビデオカメラを持参し、一人黙々と撮影に夢中になるので、妻との旅行では、「ビデオを持つなら一緒に行かない」と云われてしまった。それで、一眼レフを持たせたが、効き目がなく今でも友達と一緒に出かける始末である。

私の撮影歴はと振り返ると、旅行や結婚式等家族の行事と子供達が参加している団体でのいろいろな記録がほとんどで、不要部をカットすればまとまる作品が多かった。人前に出たの撮影は「多くの人に見てられる」との意識が強く、遠くからの撮影のため画面が振れて見ずらかったが、最近では面の皮も少しは厚くなったのか、ブレは少なくなった様である。

最近ではパソコンやDVDレコーダー等の新技術を使った機器が販売されており、これらを少しずつ購入し、使いこなすことが出来るかどうか不安であるが、半歩でも技術的に前進する努力をして行きたいと思う今日此の頃である。



## 映像との出逢い

鈴木光雄

私と映像との出逢いは豊田さんとの出逢いから始まりました。今から二十六年前子供会行事として16ミリ映写会に必要な16ミリ操作免許を取得する講習会に講師だった豊田さんに出逢い、市民8ミリ教室の事を知り、さっそく入会し映画作りの楽しさを知りました。

8ミリからビデオへと変わりましたが映像作りの楽しさは変わりありません。何度か入選入賞もできましたが？ なんと云つても大勢の人との楽しい出逢いがありました。これからも、楽しい私の映画人生を続けられる様頑張ります。…映像作りにもね？





## 遺稿 創立時の思い出

関 太郎

---

たまたま本誌の編集集中に、ひたちビデオサロンの発足年よりの会員であった関太郎さんが逝去されたとの訃報に接し本当に驚きました。

一月十一日夜、夕食はいつもと少しも変わらず、本当に眠るような、安らかなご最期だったと伺いました。享年八十五才。

昨年四月JVAの全国交流会日立大会に「日立風流物紹介ビデオ」を全員に配られ、お元気に乾杯のご発声をされたことが昨日のことのように臉に浮かびます。その翌朝、撮影に出掛けるJVA会員の皆さんを、雨の中にかかわらずホテル前で見送られ、一人一人ご挨拶されておられたのがまさか最期になろうとは……。

心よりご冥福をお祈りいたします。

---

ビデオサロン創立二十周年おめでとうございます。先日お知らせ頂いた時、あと二十年になったかと感慨無量でした。今更ながら創立の時の思い出が、いろいろ懐かしく頭の中を駆けめぐります。

ある時、見知らぬお客様が訪ねてこられました。名刺は「黒沢勇」さん。はて何のご用件？と思つてみると、「今度日立でもアマチュアビデオクラブを作りたいんだが入ってくれないか」との事、私はその主旨に大賛成し、即座に参加をお願いしました。この時、全く初対面の二人がしばらくビデオの話で夢中になった事も、きのうの事のように懐かしく思い出されます。

永年の間、お骨折り下さった役員の皆様には感謝しております。

## 定年後の趣味

高野 栄一



会社の定年時に、定年後は何をやって過ごすのですかとよく人に聞かれる事があった。

その時、私の趣味は、①園芸（庭木・盆栽・草花の手入れ等）、②読書、③イベント見学や旅行、④散歩等と答えていた。

定年後は自分の自由な時間を有意義に過ごすためのひとつの方法として、毎週市の視聴覚センターに通って自分の趣味に関する好きな本や貸し出し用のビデオテープを借りてきて楽しむことを行ってきた。

退職記念に旅行用にと小型のデジタルビデオカメラと三十五ミリカメラを購入したこともあり、「ビデオ」にも興味をもつようになった。

その頃、視聴覚センターで「ひたち映像コンクール」の発表会があり、「ひたちビデオサロン」の方から声が掛かり作品を見る事となった。上映された作品は面白いものや感動させられる作品があった。入会の誘いもあり「ひたちビデオサロン」に入会する事になった。

入会後は、先輩会員の方々と「撮影会」や毎月行われている定例会での作品の合評等を通じて色々な話し合いの中でビデオの映像に関心を持つようになってきた。

ビデオには①撮る、②見る、③作る楽しみがあると言われていたが、現在の私には①と②の楽しみで、③の作る楽しみはこれからである。

最近「DVノンリニア編集」ができるSONY製のバイオRXシリーズのパソコンを購入することができた。付属の「アドビプレミア」でムービー編集を楽しむには取り込みから、編集、出力までの基本操作をはじめいろいろな操作をすっかり覚えて作品づくりをする必要がある。これからじっくり説



明書を読みながら先輩の指導を受けて私も作品作りに挑戦してみようと思っている次第である。

## 私のビデオ歴

高橋 純雄

私が、初めてビデオを見たのは、昭和五十三年の三月でした。家庭で映像が写せるという事、画期的なものでした。私がビデオを手にしたのは、翌年の三月でした。松下電器製のマクロードNV5000ビデオデッキが十二kg、カメラが三kgもあるものでした。アルミ製のキャスターで背負い観光地に出掛けると今は珍しくないものが当時は、外国人がビデオだビデオだと寄ってきたものでした。

私の二人の娘は、当時は小学生でしたが、カメラを向けると静止画を撮る様に直立不動の体制になつて動画を撮る事が出来ないこともありました。

昭和五十七年にビデオの講習会があり参加し、ビデオクラブの発足となり会員となりました。あれからもう二十年過ぎ、去りし日々は本当に早いものです。当時は、作品というよりテレビのうつり具合が皆さんの感想でした。二十年を経過した現在、映像を編集し作品作りに変貌しました。

私は、行事などの記録などがほとんどです。日製日立事業所の民謡部の発表会、日立地区の民謡発表会の記録撮影などをしてしています。宿泊撮影会等行事に参加できなく大変申し訳けなく思っています。定年になつたらと思つていたのに現地（発電所）作業や定検作業の設計の仕事を頼まれ、ビデオの方がおろそかになっています。仕事の方もだんだん少なくなると思います。その時



は、またビデオの方へ力を入れたいと思います。  
今後とも宜しくお願いします。

## ビデオで広がる知人・友人の輪

滝 孝光

会社で、四十歳台で窓際族になり、担当製品のPR用パンフレットやビデオ制作に携わった。PR方針に従い、あらすじのシナリオをビデオ制作会社に渡すと、シナリオに合う監督を選び台本を書き、何回か打ち合せをして、予算内で長さ・被写体やロケ地を決め、見積りをして貰い制作に着手する。

撮影は、ビデオ制作会社の取り纏め者、監督、照明、カメラマンでチームを組み、スケジュールに従って各地の工場や、ロケ地に行ったが、私はプロデューサー役として撮影現場のアレンジのため同行した。

従って、国内各地は勿論、フィリピンの火力発電所の撮影の為、一週間程現地へ出張したこともあった。

このPR用ビデオ制作で学んだことは、「制作方針に従い台本を書くこと」、及び「一度書いた台本は、絶対変更しないこと」であった。すなわち、一度制作方針を決めたら、途中で変えないで初心を貫くことである。

こんなことで、退職後はビデオ制作を趣味としているが、「観る人を感動させるストーリー性を持たせた作品づくり」を信条とし、映像の鮮明さや構図、BGM、ナレーションには、あまり拘らな



いことになっている。

一方、ビデオ作品づくりをしていて、多くの知人・友人ができ、交友の幅が広がった。

在職中のPR用ビデオ制作では、制作会社の社長さんとも現在も交流が続いており、ひたちびデオサロンに入会したことで、会員の皆さんとの交流ができたことは勿論、撮影先でも多くの知人・友人ができた。

作品「地酒のこころ」では酒造会社の社長のSさん、「ソムリエまみちゃん」では女性ソムリエのMちゃんと親交を深め、自閉症者のグループ「ウェーブ」から依頼されて「働く喜びを求めて」を制作した縁で、自閉症の子ども達とその父兄の方々と交流を深め、「あなたの隣にレインマン」を制作した。また、知的障害者の子ども達の水泳教室「おたまじゃくし」の訓練の様子を撮影し、「崇君がんばれ」「かえるになりたい」を制作したが、この縁で現在は月一回子ども達の水泳訓練のコーチをしている。

ひたちびデオサロンの鎌倉撮影会では、江ノ島の龍口寺の駐車場で厚木市のNさんに声を掛けられ、お互いの作品の交換をしている。

青森県車力村の水泳駅伝を扱った「チエスポロー」では、役場のKさん、遭難した貨物船チエスポロー号から流れ出た洋梨の木を育てているNさん夫妻との交流もできた。

昨年のひたちびデオサロンの春のミニ撮影会「日立さくらロードレース」では、日立市体育協会のUさん、Eさんと親交ができた。

「鮎川地区艦砲射撃犠牲者慰霊祭」を撮影し制作した「鎮魂」では、世話人のKさんと知り合いになった。

大相撲の大至関の講演会を撮影し、父親のTさん、写真屋のYさん及び郷土後援会の役員の方々との交流もできた。

新聞の記事を見て、撮影をお願いした高萩市高浜町の「元旦神輿渡御」の撮影では、高浜海青



会の役員のNさん、Sさん、Mさん及び会員の皆さんと交流ができ、この夏の「高萩まつり」ではOさんを題材に「みこしは唯一の楽しみ」を制作した。

最近では、近くの成沢鹿島神社の「ささら」が、十二年に一度の鹿島神宮御船祭に奉納されると聞いたので、撮影をお願いしたら、遠征チームのメンバーに加えてくれ、ここでも氏子総代、ささら保存会の方々と交流ができた。また、鹿島神宮奉納に同行したささらの踊り子の小学生達は、小学校近くの道路で遭うと「ビデオのおじちゃんだ」と声をかけてくれ、うれしくなる。

このように、趣味でビデオ作品づくりをしていると、知人・友人の交友の輪が広がり、老後の楽しみが増え、ますますビデオに熱中しそうだ。

## 先輩の研究意欲に感激して

田光 義和

HVSに入会して、あれよあれよという間に九年の歳月が過ぎてしまいました。

当時の編集機材はアナログ全盛期で、会員の中にも最新型の機材を購入される方が目立ちました。

それからしばらくして3CCDのカメラ、そして3CCDのDVCと変わり、間もなくパソコンへと時代が変わりました。現在の会員のほとんどがパソコンでの編集を行っているのではないのでしょうか。

このめまぐるしい変化に、平均年齢の高い(世間では高齢者と呼ばれる)会員の諸兄が常に追従し、旺盛な探求心とバイタリティーで新しい技術の吸収をされる姿には感動と感銘をうけま



た。

そして見事に。パソコンを自由自在に操り立派な作品を生み出しています。これはHVSの誇りだと思います。

もう既に落ちこぼれの自分に、先輩のエネルギーを少しでもいただき、皆様のレベルに達したいと願っているこの頃です。

## ビデオと私

戸羽 三弥

私がビデオとかかわりをもったのは、平成八年に韓国旅行に行く時です。旅の思い出に今までの写真でなく、動きのあるものが欲しかったのです。それからビデオを始めましたが、編集は必要なカットをダビングするだけのものでした。そのうち、タイトルやBGM、ナレーション等を入れたいと思うようになりました。

そんな折、NHK文化センターでビデオ講座をやっているのを知り受講しました。(この時の講師が豊田さんでした)ところがこの講座は半年でなくなってしまうのです。講座廃止の時、豊田さんから、ひたちビデオサロンの紹介があつたのですが、場所が遠いこともあり入会は見合わせていました。

その後、もつと勉強が必要だと感じ、平成十四年四月に入会しました。まだ編集技術のマスターが出来ないですが、今後よろしく願います。

## 8ミリ教室よりビデオサロンまで

友部 丈夫



茨城国体が開催された昭和四十九年から数えて二十八年、始めた当初は8ミリだったが、天皇陛下の太子植樹祭を撮影したものではありません。新人賞を受賞したのが、励みになりました。

サークルの先輩達より指導を受け乍ら、研鑽を積んで今日まで、ビデオは自分で覚えるものと、座右の銘にしております。

先輩達の後をつけて、撮影のコツを見て覚えることが、上達の早道だと思つて居ります。

「ひたちビデオサロン」は、素晴らしい！

外山 仁一



二十周年という歴史と伝統のある「ひたちビデオサロン」に今年の四月に新入生として入会させていただきました。この会のことを知ったのは、豊田先生から送られてきた県芸術祭の「映像コンクール」のプログラムに「ひたちビデオサロン」の紹介があったからです。

早速、ビデオサロンのホームページを見ましたところ、とても充実した会であることを知りました。それで入会を申し込んだ次第です。

この会には、県の芸術祭で入賞されたすばらしい先輩達がおられること、例会で会員の作品が紹介されることなど、聞いたり見たりすることが小生にとっては、とても刺激的で新鮮に思える



のです。どのように作品を制作するのが良くわかります、

そして、初心者にとってありがたい、撮影会の開催、例会の午前中の自由な研修会などいろいろな行事があり、初心者も楽しみながらなんとかやっていけそうな気がします。

今年、「鷺子神社のお祭り」と「尾瀬」の撮影会に参加しましたが、幹事さんの準備に対する熱心さ、親切さには感銘しました。

今後いろいろと盛沢山の企画があると思いますが、期待しております。今後ともご指導の程よろしくお願いいたします。

## 私の8ミリ映画とビデオ歴

橋浦 貞雄

私が8ミリカメラを初めて手にしたのは昭和四十六年、当時日本舞踊を習っていた時でした。週一度の練習では中々覚えられない、家に帰って復習をするにも忘れたところを教えてくれる先生が居ない。そこで8ミリカメラで先生の振付を撮影して置けば何時でも映画を見ながら練習が出来ると思いつきました。これが8ミリを始めたきっかけでした。

さてどんなカメラが良いかと思案しました。その頃8ミリカメラはレギュラー8からシングル8やスーパー8に移行しつつありました。私は映写画面の色彩に惚れてスーパー8を選びキヤノン1014を買いました。

撮影は子供達の成長記録や家族旅行の情景が主でした。後に8ミリクラブの撮影会で、歌謡曲映画やドラマ等を作りました。編集はエンジニアの豆電球六Vの光でフィルムの画面を見ながら



スプライサーで不要部分を切り取り一秒間十八コマのカウンターと定規で時間の長さを計り、特殊なテープで継ぎ合わせるという方法でした。編集の終わったフィルムを業者に依頼してフィルムの両側に磁気テープをコーティングし、音楽やナレーションを録音する。こうして出来たフィルムで映画を写し家族や近所の人達に見てもらうのが楽しみでした。映写機も最後には会場で横長4メートルにも写せるクセノンランプの、GS1200にし、明るく大きく写して楽しみました。あの頃が懐かしく思います。

ビデオが市場に出始めの頃はピント、色彩共に8ミリ映画に比べ今一つという物足りなさを感じ直ぐにはビデオには馴染めませんでした。その後、性能も段々良くなったので私がビデオを始めたのは昭和六十年の頃でした。今は時代の波に押されて8ミリ映画もビデオに変わりました。その上編集機材もビデオデッキからパソコンに変わりつつあります。私も最近パソコンに依るビデオの編集を習い始めました。今後も体力と健康の許す限りビデオの映像作りを続けようと思っております。

## 誘われ、教えられ、背中を押されて

原田 英一郎

私は、昨年七月にHVSへ入会した新米です。HVSの先輩の細川さんより誘われて入会させていただきました。それから今日まで、勉強会などを通して、ビデオづくりの勉強をさせていただきました。この勉強会を通じて、観ていた方に対して、短時間の中で、自分の意図や思いを伝えることが、如何に難しいかということを感じて参りました。私も、数回、自作のビデオを先輩の

皆様に見て貰い、いろいろの意見や改善点の指摘をいただいて、基本的な、語り口、話の作り方の不足点を具体的に教えていただきました。

今年の茨城県芸術祭映像コンクールの応募の際にも、私は、それに対する応募の意図は、全く中途半端で殆ど固まっておられません。しかし、八月下旬に、細川さんにお会いした時、「このようなチャンスにチャレンジすることが勉強であり、励みになることであり、チャレンジする目標をもつことが生き甲斐という点で大切なことではないのか！ 応募することを考えては」というアドバイスをいただきました。それに励まされ、あわてて作り提出したのが「この一年八ヶ月」です。何しろ、時間的余裕が余りありませんでしたので、五月の勉強会に提出した「孫の記録」を一部使うことにし、これに自分なりの思いを付加して纏めることにしました。この際、五月に頂いた先輩諸氏の意見や指摘点の改善に努めました。その結果は、晴天の霹靂、思いがけずも特賞をいただき、只々、恐縮している次第です。

もし、先輩の誘いや教え、そして背中を押されることがなかったら、このような評価を得ることはあり得なかった訳であります。このような次第で、諸先輩の導きと教えに負うことが多く、只々、感謝の気持ちで一杯です。

私は、今もって、ビデオに関して素人であり、これから学ぶ点は一杯あります。今年二十周年を迎えられたHVSの名に恥じぬように勉強してゆきたいと思っております。諸先輩のご指導の程よろしく願います。

## 私の履歴



小生の8ミリ映画との出会いは昭和二十七年大学生の頃で、蔵王にスキーに行く時親戚から借りて持っていたのが始まりで、その頃は16ミリフィルムを往復で使っていました。

その当時はもっぱらスキーの時だけでした。それは8ミリ映画よりスチール写真に凝っていたからで、全写連をはじめプライベート・クラブ、七つに所属し毎月の例会に四つ切りに伸ばした作品を持参して出席していました。

六年の大学生活が終わってからは、写真をやめエルモのムービーカメラ(8ミリ)を買い、旅行など撮るようになりました。

新婚旅行の時は少し凝って、編集を終えたフィルムに磁気テープの様にコーティングしてもらい、バックミュージックを入れました。それにタイトルを画面にオーバーラップさせるために、撮り終った一本目の最初の部分に二重写しで、セルに書いたタイトルを、黒のビロード布をバックに入れてみました。

この頃には小生のクレジットタイトルを、女子美大出の兄嫁に制作してもらったものを使用していました。

ムービーカメラも三種のレンズがついたターレット式になり、フジカシングル8が出て、画質が向上しサウンドが入るのが出て、より面白くなってきました。

ビデオの方は何時ごろだか忘れましたが、U規格の民生用が初めて出始まり、その当時はビクターが業界をリードしていたので、一式：ビデオカメラ(五・七kg)・携帯用カセットレコーダー(十二・五kg)・プリロール編集の出来る編集用デッキ、それにオーバーラップやワイプが出来るものを購入しました。

その当時は一時間ものの生カセットテープが一万円もしました。これで始めて撮影したのが、新宿住友三角ビルを一周するレイアウトでミニSL国際運輸会が行われた時で、十二・五kgのレコーダーと五・七kgのビデオカメラを、背負って取材に行きました。結果は悲惨で、色の再現が悪く画





質もいまいちで、重い思いをして行ったので、余計がっかりしました。特に赤色が悪く紫に近かったり、オレンジに近いことがありました。

そのうちに一体型のビデオカメラが出て急激に普及し始めました。現在のデジタルビデオを考えると超速の進歩です。

私たちビデオサロンも及川さんが会長のころ、ビデオ雑誌で始めて存在を知ったのですが、実際にノンリニア編集を始めたころ、会に入ればどなたかに教えをこうことが出来ると思い、平成十年二月に入会させて頂きました。

履歴だけは古いのですが、旅行日記的な事で自己流を通して来ましたので、基礎が出来ておりませんのでご指導の程よろしくお願い致します。

## 私のビデオライフ

藤来 稔

私たちビデオサロン発足二十周年おめでとうございます。

わたしが私たちビデオサロンに入会したのは、昭和五十八年八月です。その一年前セパレートタイプのビデオを購入しました。

ビデオになるまでは、8ミリムービーで子供の成長記録などを中心に撮り続けてきました。しかし、フィルムの確保がだんだん難しくなってきたことに加え、ビデオが庶民の手に届く(値段が)ところまできたので、思い切ってビデオに切り替えました。

当時のビデオは、セパレートタイプが主流で重いデッキをかつぎ、撮影をしたものでした。若かつ



たから重い機材を持つてでも撮影できたのでしよう。今だったら見向きもしないと思います。

8ミリ時代の編集はオリジナル撮影のフィルムを切ったりつないだりしますので、本当にこのカットから切つていいのかどうかを見極めながら、慎重に慎重に作業をしていました。

ビデオの編集を一口で例えるなら、オリジナルテープからコピーを取りながら、つないでいく…。そういう安易さから、『テープは不要になったら消してまた使えばいいや…』と昔に比べ撮影・編集への真剣さが足りなくなつてきていることに最近気づき、反省しきりの今日この頃です。

これからは、8ミリ時代の気持ちを忘れずに、孫たちの成長とともにビデオライフを存分に楽しんでいこうと思っています。

更には、ビデオサロン会員の一人として会の発展に微力ながら協力していきたいと考えております。

## ビデオとわたし

細川 正男

ビデオをはじめたのは一九九四年春で、旅行や家族の記録のためでした。その前から、写真にくらべて圧倒的に情報量が多いビデオに興味を持つていましたが、大きいカメラを肩からぶら下げることには抵抗感がありました。一九九四年春、ウエストポーチ収納タイプのズーム式Hi8カメラが発売され購入したのが最初で、一九九七年からDVカメラを使用し、二〇〇一年一月ひたちびデオサロンに仲間入りさせていただきました。

入会后、ひたち映像コンクールや茨城県芸術祭の入賞作品の鑑賞、会員作品の鑑賞と合評、撮



影会や勉強会などから、多くのことを楽しく学ばせていただいております。海老沢さんはじめ諸先輩のご指導のおかげで、県芸術祭で優賞のおまけまで頂戴し、恐縮するとともに家族旅行の良い記念ができて感謝しています。これからも、ビデオを楽しみながら勉強したいと思っています。

## 七十の手習い

本田 正次

8ミリカメラをはじめて手にしたのは平成三年でした。その頃、常陸太田市から里美村の国道沿いで、クリストのアンブレラを撮りながら歩いた記憶があります。しかし旅行などで撮る以外は、あまりカメラを使いませんでした。編集することもせず、そのまま再生して見るだけでしたので、カメラも放置することが多く、動かなくなっていました。

平成十一年新しいもの欲しさから、TRV900を買いましたが、使用頻度はまた少なくなってきました。カメラは正直で可愛がられないと、故障を起こして音声がなくなり、修理代がかかってしまいました。

平成十二年に勧められて、ひたちビデオサロンに入会しました。以前に知っていた方も居りましたので、安心して仲間入りさせていただきました。ビデオカメラの使い方や、編集の仕方などを親切に教えてもらっており、撮影会などにも進んで参加をさせていただいております。

編集の方法も時代の進化とともに、ノンリニア編集に代わっていることを知り、七十の手習いで、PCでの編集に挑戦することにし、思い切つてRX73を買いました。まだ活用する段階までには至っていませんが、PCに慣れることに四苦八苦している段階です。



しかし、後戻りはできないので、カメラを大事にし、離さないように、多くを撮って、自分で編集した作品を発表できることを楽しみに、努力したいと思っております。

## 私のビデオ編集考

増岡 信雄

ひたちビデオサロンも二十周年を迎えています。こちらで私のビデオ撮影・編集について振り返って見る事と、今後の行き方について考えて見るのも意味のある事と思います。

私のビデオのスタートは定年後の平成七年の海外旅行で、ソニーHi8カメラを衝動買いしたのが始まりです。平成八年に鈴木隆さんの紹介でビデオサロンに入会し、S-VHSデッキ、プログラム編集を経て、繰り返しダビングでの映像劣化の解決策としてカメラのDV化とし、問題の編集は二台のカメラ間で直接ダビングするまでの経過は平成十一年「私のビデオ編集」にまとめ皆様にも見て頂きました。

そこでその後の経過とパソコンによる編集への移行について述べます。カメラ二台方式は手軽ですが、高価なカメラの酷使故障につながるのではないかとの意見もありましたが、私の場合、ソニーの商業主義にイヤ気がさし平成十一年キャンP V1とC V11で、一時検討したソニー3CCD、TRV900一台分で購入でき、コントローラーはHi8時代に使っていた安いファミリースタジオで済ませ、繰り返しDV編集ができるようになりました。最近のカメラはメカの精度高く、長時間使用時のヘッドの損耗だけが問題で、これも一年の保障期間直前に無償交換し、今年二年で二回目を有償交換しましたが、VX1000、2000等高級機ではメンテ費用も大変ですが、

私の場合では一〜二万円程度で、DVデッキを購入しなかったことを考えると安いものだと割り切っています。しかし最近のコンパクトなカメラではメカよりも、暑い時期長時間連続使用時の電子回路温度上昇による熱暴走が問題でしたが、これも扇風機をガンガンかける強制冷却で解消しています。

二台使用の利点は、テープ装填時の誤操作でテープが取り出せなくなった時等にサブカメラでピンチを乗り越えたことが再々あります。

その後平成十二年孫の「あずさちゃん」の音楽事始め」が、パナソニックの準グランプリとなり、賞品として3CCDのDJ-100を頂き、現在は三台で運用しています。

そのうちファミリースタジオではタイトルが貧弱、トランジションが限られる不満がつのり、パソコンでのDV編集を考えるようになりました。PCも初体験でしたが、当時定評のあったパイオでは四十万円もするので、たまたま新聞紙上で大広告の出たソーテックのデスクトップ機を平成十二年に約半額の二十二万円で購入しました。AV重視機でCPU七百MHz、メモリ二百二十八MB、HDD四十GB、ビデオ編集ソフトはユーリードのビデオスタジオが入っていました。ただしモニターだけは映像主体となるのでソニーのトリニトロン、スクエア・フラット管一九インチにしました。ソーテックのようなメーカー製品は不安があるのではないかとの意見もありましたが、その後長期間作品の編集を考慮して平成十三年メモリー二百五十六MB、HDD六十GBを約三・七万円を増設し全く問題なく使用しています。トラブルと言えば皮肉にもソニーのトリニトロンモニターがいかれましたが、これも一万円で最新の機種に代替えてくれました。OSがWindows98セカンドなので、時々フリーズしますが、他の内蔵ソフトの関連もあり今さらXPに変えて安定性をアップする事は考えていません。

その後十三年にユーリードのビデオスタジオ・プロ6.0の簡易版を一万円ポツキリでアップグレードし、当時はマニュアル本が無く使っている人も少ないので四苦八苦しました。約半年で何とか使

いこなせる様になっています。PCライフでも平成十三年七月、YahooのADSLに加入して今に至っています。以上私のビデオ編集歴を中心に述べましたが、今の世の中のビデオの状況を見てみましょう。

平成十二年十月浦和市の孫の運動会、お父さんお母さんのビデオ撮影の多さが印象的でしたが、今年の六月の幼稚園の給食参観会に参加した所、おばあさんの二人を除いた殆どの若いお母さん約二十名が全員ビデオとデジカメ(一名位)を廻していたのにはビックリ、今のビデオ時代当然なのかもしれないがこの人達帰ってからどうしているのだろうかの思いが深くなります。多分長いビデオを一、二回見ておしまいなのではないかと思えます。

今の若いお母さん、メールやインターネットで殆どの人がPCを扱っており、もつと簡単にPC編集が出来るようになる必要があると思えます。

当クラブでは作品作り等が主で、アドビやメディアスタジオ等のプロ級のソフトが多いと思えますが、機能は多いかわりに操作にかえって苦勞しているケースが多いと思えます。数千円程度の簡易な内蔵ソフトを使い、NGカットの削除、簡単なタイトルを入れるだけでも良いので、そうした啓蒙をやる必要があるのではないかと思います。最近の携帯電話で映像を撮影し送信する女子中高年生が多い事を考えても可能だと思えます。まず一度撮影テープを持って来てもらい簡単な編集を実体験してもらおう事が第一歩ではないでしょうか。社会への還元として考える必要があると思えます。





## ビデオと私

松下喜行

二十周年おめでとう御座います。このように長く続くのも偏に会員の皆様のビデオに対する情熱の現れだと思えます。近年ビデオに関する機器の進歩は目まぐるしく、日進月歩で、編集方法も8ミリ時代のハサミで切ってつないだ時代から、パソコンで編集する方が多くなったように思います。

入会して三つの効果がありました。一つは、当時、私は何の知識もなく、初めての例会でビデオは後から撮影した映像を必要に応じて、手前にもつてくると、流れが良くなることもあると言われたことがあります。ビデオカメラしか持っていない私は、どの様にして編集するのか解りませんでした。あまり幼稚な質問をすると笑われると思い、調べて見たら、編集機なるものが沢山あり、とても高価なものばかりで驚きました。昨年やっとパソコンを購入でき、編集出来るようになります。分かりけれど、機器があれば立派な作品が出来るものでもありません。編集する知識が必要だと分かりました。映像、現地音、これは撮影すればよいが、音楽、文字による説明、ナレーション、更に必要なのは、この作品で何を表現又は感動を与えようとしているか、ストーリーが必要だと分かりました。

二つ目は、ミニ撮影、宿泊撮影に参加する楽しみです。同じ趣味を持つ仲間が、ごめん、当会には見識の高い人ばかりで、同等に扱って申し訳ないが、気心の合った者同士で撮影に行くのも楽しいものです。何か小学生時代の遠足に行く気分ワクワクするけれども、前日までには、下調べをして、何をテーマに撮影したらよいか、気配りが必要と分かりました。そうすれば余裕を持って、楽しく、撮影、見聞できるのではないかと思います。



三つ目は、例会に出席すると、皆さんの作品から、国内、国外の映像を無料で見せて貰い旅行した気分になります。また、撮影会の作品を見たときなどは、このような作品の作り方があるのかと感動します。孫とテレビを見ていると変身して別人になって力を発揮するマンガがありますが、私も鑑賞する立場から、見て貰う立場に変身したいものです。

最後に、長島茂雄選手が引退したとき「巨人は不滅です」と挨拶したように、この会も更なる永続することを願っています。「継続は力なり」エ？どこかで聞いたことがある。

## ビデオカメラとの出会い

松本 肇

今から二十五年前になるかと思いますが子供が小学生の時に何か思い出に残るものかと思いい写真より「動きと音の入る」チノンの8ミリを購入しました。「音八くん」です。当時は五分のフィルムであり貴重でした。そのため出来るだけ多く撮ろうとパンの繰り返しでした。現像して映してみると動きが多く目が回るようでした。四、五本撮影してそのまま筆筒の肥やしとなっております。今でも新品同様です。

その後暫くしてCカセ「ナショナルのマックロードムービー」を購入しこれも編集せず撮影したままになっています。

そんな時日立市報に「日立ビデオサロン」の募集があり、半信半疑で講習に参加しました。そこに海老沢さんがおり、それまで近所にいながら海老沢さんがビデオで幅広く活躍していることは知りませんでした。豊田さんの講義を受けビデオは固定で撮るのが基本であると言うことを話さ





れた事を覚えています。

入会して最初のミニ撮影会は水戸の偕楽園と徳川慶喜展示館でした。その発表会がありそれを見て固定で撮る事、又その編集の素晴らしさに感動しました。

入会した当時は例会に出席する事だけでしたが、最近皆さんがパソコンでノンリニア編集を行うようになりました。自分も何とかパソコンに挑戦し編集してみようと平成十一年十月に(パソコン)ソニーのバイオを購入しました。

これも先輩の指導を受けながら曲がりなりにも編集ができるようになりました。これからは基本である「起承転結」を頭に入れ少しでも海老沢さんに追いつくよう頑張つて行きたいと思っております。今までは何かと忙しく編集も出来ませんでした。これからは撮影をしたら必ず編集をするつもりで居りますので皆さんのご指導を宜しくお願い致します。

こんな趣味で本当によかった

村田 一郎

私がカメラに関心を持ったのは小五の頃でした。当時は東郷カメラと言って一枚ごと現像焼付をしたもので、カメラ屋さんが全部道具を揃えて暗室まで貸して呉れました。親が写真屋でうつ



右から① エルモ映写機、② チノンカメラ  
③ ナショナルCカセ、④ ソニー8ミリ TR2  
⑤ ソ VX1000



してくれた小中学生の頃の写真も、戦災と共に全部なくなりました。

その無念さもあり、戦後間もなく中古のカメラを買って「キク」「オリエント」と言うフィルムで楽しんでいました。8ミリ映画に手を染めたのは十六ミリフィルム使用で「ゼンマイ」から電池に変わった四十五年頃でした。カメラもエルモ8EE、P300、Z600、チノン、ニコンRと移りましたが、今は亡き友人、知人、親類などの元気な姿の記録は宝物です。こんな趣味で本当によかったと思っています。

それから月日が流れ、Cカセビデオ平成二年、Hi8が平成四年、DVが平成八年と変わりましたが、進歩はありません。豊田さん、海老沢さんの評判を聞いてHVSに仲間入りさせていただきました。今は第三日曜日が一番たのしい今日この頃です。ノンリニアでは大変頭に来ています。

## 二十才を迎えた私たちビデオサロンと私

矢部正夫

私たちビデオサロンが生まれてもう二十年も過ぎてしまったかなあと、しみじみ思うこの頃です。私がビデオカメラを手にしたのは二十三年位前になります。その当時はカメラとデッキが別々で重い機械でした。一日外で肩にかついで撮っていると、肩の皮がむけてしまったこともありました。最初はカメラのスイッチを入れ、ズーム、パンと面白半分にあわしていました。丁度その頃日立視聴覚センターで、ビデオ撮影の講習会が有り、その講師が豊田さんでした。講習が終わり、豊田さんの発案でこれを期に一回目の受講者数名が集まり、私たちビデオサロンが誕生した訳です。

月一回の例会も楽しみに出席し、いろいろな催しや行事を皆んなで撮って、編集の勉強をしま



した。会員の方も年々増え、今では四十数名の大家族です。作品作り、編集と皆さん腕を上げ、今では最先端のパソコンを使つての編集と言う所まできました。私は残念ながら中々例会にも出席出来ず、ちよつと遅れをとつた感じです。仲間の人達も明るく親切で、編集・作品作りと、全国数あるサークルの中でも我がひたちビデオサロンはトップクラスではないかと思つています。又私達と同じ仲間が全国各地に数多く有り、その交流も数年前からはじまり、今回は日立で行われました。

これから先もひたちビデオサロンは増々充実し、躍進していくものと思います。今後もなかなか大ベテランの人達には追い付けませんが、どうぞ宜しくお願い致します。

## ビデオと共に

弓野 忠次郎

私が初めてビデオカメラを手にしたのは昭和五十五年の春だった。当時ゴルフでスライスに悩んでいたころ、雑誌にビデオに撮つてそれをみると欠点が見えるような記事が出ていた。早速ビデオを購入、撮影してみたが当時のビデオでは静止画など見られたものではなく、私の意図するものではなかった。暫く放置していた。その後妻に促され孫達を撮るようになった。撮りっぱなしだったが家族(三世代)で結構楽しくみたものである。

それから、いつのまにか孫たちの成長記録を撮るようになっていた。

昭和六十三年秋、HVSに入会、先輩諸氏のご指導を得てどうにか編集らしきものが出来るようになったところ、今迄撮りためた孫達のビデオを編集した。



今孫達はそれぞれ成人している。自身の幼い頃と同時に若い両親の姿がテレビに映し出されるのを見て、其の時代にタイムスリップしたようだと感じていた。私のビデオは孫の成長と共に歩いてきた。しかしHVSに仲間入りさせて頂いたお陰で長続きしているのかもしれない。これからも頑張つてやっ行って行きたいと思っている。

## HVS二十周年記念について

吉村 進

HVS二十周年を迎えられ、おめでとうございます。二十年目の会社生活の節目を顧みますと、丁度四十歳頃で作番まとめがようやく一人でできる年代を思い浮かべます。

私は入会して未だ三年目の新入生です。先輩の旅行記録のビデオを観て、きれいな映像と楽しい一コマに魅せられて入会させて頂いたのがきっかけです。

HVSの例会の作品発表と講評の中で、先輩方の作品を観るたびに、テレビのドキュメンタリーを観ているような錯覚にさせられる事が度々ございます。

私も早くこのようなレベルに達すべく努力しているところです。

今後ともご指導宜しくお願いいたします。



# ひたちビデオサロン二十年のあゆみ



年	月	主 な で き ごと
一九八一	十二月	視聴覚センターのビデオ講習会受講者の有志により、会発足のための準備委員会を開く
一九八二	一月	第一回例会を兼ねて設立総会を開催。会員十三人で発足
一九八三	三月	初代会長に黒沢勇氏(写真右)、副会長に小山礼二郎氏選出
一九八三	三月	日立製作所東海工場から講師をお招きして研修会開催
一九八三	一月	会員の自己紹介ビデオをスタジオ研修を兼ねて作成
一九八四	四月	香川ビデオクラブとの交流始まる
一九八四	一月	会長に小山礼二郎氏(写真左)、副会長に鈴木静氏を選出
一九八五	七月	第一回撮影会を筑波山で実施
一九八五	九月	「会報」第一号を創刊
一九八五	九月	よかつへまつりの記録を共同制作
一九八五	一月	副会長改選、平輪憲道氏
一九八五	三月	NHK全国ビデオコンテストで「夢風船」がベスト十三に選ばれ、会長がテレビ出演
一九八五	六月	常磐自動車道を歩く会の記録を制作
一九八五	十一月	小山礼二郎会長逝去



年	月	主 な で き ごと
一九八五 昭和三〇	十二月	共同自主制作作品「よみがえる日立の川」完成
一九八六 昭和六一	一月	会長に平輪憲道氏(上写真)、副会長に鈴木静氏選出
	二月	視聴覚センターの「映像文化フェスティバル」の館内テレビ放送を担当
	四月	春のいわき路で撮影会開く
	九月	ピッピコンサートの記録を共同制作
一九八七 昭和六二	一月	会長に小林良弘氏、副会長に及川春治氏選出
	三月	「メッセージをあなたに」が茨城映像コンクールで優秀賞に
	五月	視聴覚センターの教材制作委員会に参加協力始まる
	五月	新緑とつつじの那須高原で撮影会を実施
	九月	「よかつぱまつり」で街頭テレビ局を開設
	十一月	第一回ひたち映像コンクールで「よみがえる日立の川」が優秀賞に
一九八八 昭和六三	十月	初夏の会津撮影会に十九人参加
	十月	撮影会作品のコンクールを実施。出席者全員が審査員に。以後、撮影会ごとに行う恒例行事となる
	十月	「よかつぱまつり」ビデオコンクールを主催する
	四月	市制五十周年記念事業の記録協力始まる
	五月	春の撮影会は貸切バスで日光へ
	七月	日立製作所東海工場見学会を実施
	二月	第二例会がスタートしたが、まもなく解散
一九九〇 平成二	十一月	潮来撮影会を実施
	六月	茨城県芸術祭二十五周年の記録ビデオを映像水戸と共同制作

年	月	主 な で き ごと
一九九〇 一九九一	平成二 平成三 十二月 一月 二月	NHKテレビ「いきいきテレビランド」にスタジオ出演 年会費を五千円に改定 ミニ撮影会始まる。第一回は諏訪梅林で ビクター水戸工場見学会を実施
一九九二	平成四 三月 四月 五月	プロの講師を招いてビデオ講習会開く。(松本豊美氏、原一民氏) 神峰公園でミニ撮影会実施。雨にぬれる桜を撮影 十周年記念祝賀会を実施
一九九三	平成五 三月 四月 五月	秋の撮影会は平泉へ。狛鼻溪くんだりなどを楽しむ。十八人参加 地域映像制作研修会を開催。パネルディスカッションなど盛況 助川城址公園でミニ撮影会
一九九四	平成六 五月 十一月 十二月	春の撮影会は奥松島へ。嵯峨溪島巡りなどを撮影 秋のミニ撮影会は、花園神社周辺へ ビデオカメラマン全国交流会に、当会から四人参加
一九九五	平成七 三月 一月 十一月	会長に及川春治氏、副会長に海老沢公氏を選出 第十回記念撮影会は、蔵のまち喜多方へ。二十二二人参加 秋のミニ撮影会は、奥久慈へ 副会長に上原稔氏選出 春のミニ撮影会は塩谷崎灯台へ



	年	月	主 な で き ごと
一九九五	平成七	四月	「会報」発行百号達成 奥会津へ撮影会。駒止湿原、大内宿など撮影。二十二人参加
一九九六	平成八	五月	雑誌「ビデオキヤパ」が撮影会コンクールの様子を取材
一九九六	平成八	八月	秋のミニ撮影会は、水戸八景めぐり
一九九六	平成八	十一月	春のミニ撮影会は、大子七福神めぐり
一九九六	平成八	三月	撮影会は湯西川へ、華麗な平家大祭を撮る。十七人参加
一九九六	平成八	六月	秋のミニ撮影会は「郷土芸能の集い」と「百年塾フェスタ」に参加
一九九六	平成八	十月	映像文化フェスティバル実行委員長に上原稔副会長。ひたち映像
一九九七	平成九	十一月	コンクール審査員に海老沢公氏就任
一九九七	平成九	十二月	映像文化フェスティバルのカラオケ道場で行ったチャリティ募金を
一九九七	平成九	一月	茨城新聞「愛の募金」へ
一九九七	平成九	一月	会長に上原稔氏、副会長に小池彪氏選出
一九九七	平成九	三月	春のミニ撮影会は、常陸太田の史跡めぐり
一九九七	平成九	五月	富士五湖撮影会、富士の姿を追って一喜一憂。参加者二十人
一九九七	平成九	十月	副会長 小池彪氏逝去
一九九八	平成十	十二月	十五周年記念大忘年会を開催
一九九八	平成十	一月	副会長に鈴木隆氏選出
一九九八	平成十	一月	ソニーDVデッキ二台のデモ実施
一九九八	平成十	三月	春のミニ撮影会は、水戸慶喜展示館と偕楽園
一九九八	平成十	五月	前夜出発で佐渡へ撮影会。二十四人参加
一九九八	平成十	八月	パナソニックDVデッキのデモ実施
一九九八	平成十	八月	

年	月	主 な で き ご と
一九九八 一九九九	平成十 平成十一 四月 十一月	例会で「私の編集室」を開始 ミニ撮影会は地元で、さくらまつりを撮影 秋の撮影会は、塩原温泉郷へ 副会長に小田切亘氏選出
二〇〇〇	平成十二 一月 三月 三月 六月 三月 三月	ひたち映像コンクール入賞者と審査員を囲む会開催 ミニ撮影会は、国営ひたち海浜公園へ 撮影会は、初夏の鎌倉へ 日立のDVDカメラのデモ実施
二〇〇一	平成十三 二月 二月 十月 十月 六月 四月 五月 四月 二月	ミニ撮影会は、御岩神社回向祭を撮影 NHK「首都圏いきいきワイド」に海老沢公氏ご夫妻が生出演 ひたち映像コンクール発表会にあわせビデオグループ交流会を開催 ミニ撮影会は、さくらロードレースを撮影 グループ別勉強会始まる
二〇〇二	平成十四 一月 三月 三月 四月 七月 十月 十二月	JVA十周年記念「軽井沢の集い」に六人が参加。次回開催日立決定 上高地撮影会に二十二人参加 会長に小田切亘氏、副会長に豊田正夫氏選出 会員そろいのジャンパー作成 JVA全国交流会日立大会を開催。桜花の下九十七人が集う ミニ撮影会は鷺子神社の祇園祭を撮影 尾瀬・檜枝岐で撮影会 二十周年記念大忘年会開催

# 会員の外部コンクールでの入賞記録

大会名 (県) … いばらき映像コンクール

(芸) … 茨城県芸術祭小型映画・ビデオ部門(のち映像部門)

(ひ) … 日立映像コンクール

年 度	内 容	作 品 名	受 賞 者
一九八六 一九八七	(県) 優秀賞 (芸) 入選 (芸) 入選	メッセージをあなたに 新しいゾウさんのおひろめ 蔵の町喜多方を訪ねて よみがえる日立の川 シゴト忘れて運動会	ひたちビデオサロン 海老沢公 鈴木光雄
一九八八	昭六三 (芸) 入選 (芸) 奨励賞 (芸) 優賞 (ひ) 佳作 (ひ) 佳作 (ひ) 佳作 (芸) 入選 (芸) 奨励賞 (芸) 優賞	運動会六年の歩み 私達の新しい友達 港のスケッチ 雨の七福神めぐり 日立市史跡を訪ねて ぼくたちのうんどうかい マオリの歓迎 ピッピと心に響く歌 鷺子夏まつり	ひたちビデオサロン 海老沢公 橋浦貞雄 鈴木光雄 小室政衛 小池金治 海老沢公 海老沢公 小林良弘ほか
一九八九	平一 (芸) 奨励賞 (芸) 特賞 (ひ) 佳作		小林良弘ほか

年度	平一	平二	平三	平四
一九八九	一九九〇	一九九一	一九九二	
（芸）奨励賞	（ひ）佳作	（ひ）佳作	（ひ）佳作	（ひ）特別賞
こけしの里蔵王	ふるさと紀行会津若松	常陸大津の御船祭	夏の日の保育園	手描き友禅を創る
橋浦貞雄	鈴木光雄	海老沢公	小池金治	小田切亘
ふるさと紀行会津若松	夏の日の保育園	手描き友禅を創る	潮来をたずねて	水郷旅情
鈴木光雄	海老沢公	小池金治	小田切亘	橋浦貞雄
常陸大津の御船祭	夏の日の保育園	手描き友禅を創る	潮来をたずねて	水郷旅情
海老沢公	小池金治	小田切亘	橋浦貞雄	小池金治
小池金治	小田切亘	橋浦貞雄	小田切亘	橋浦貞雄
手描き友禅を創る	潮来をたずねて	水郷旅情	富士登山	よみがえった風流物人形
小田切亘	橋浦貞雄	小田切亘	海老沢公	堀米のクスノキ
橋浦貞雄	小田切亘	海老沢公	小田切亘	桐生を訪ねて
小田切亘	海老沢公	小田切亘	橋浦貞雄	能面を創る――小面――
堀米のクスノキ	桐生を訪ねて	能面を創る――小面――	宮田佐々羅の記録	田尻宿の鳥追い行事
小田切亘	海老沢公	小田切亘	橋浦貞雄	アンブレラのある里の風景
海老沢公	小田切亘	橋浦貞雄	小田切亘	日立の山火事
小田切亘	海老沢公	小田切亘	橋浦貞雄	我が家の四季の花
橋浦貞雄	小田切亘	海老沢公	小田切亘	平成の里
小田切亘	海老沢公	小田切亘	橋浦貞雄	織都桐生は水と緑に包まれて
小池金治	小田切亘	橋浦貞雄	小池金治	水郷旅情
橋浦貞雄	小池金治	小田切亘	橋浦貞雄	ともにはたらく
小池金治	小田切亘	橋浦貞雄	小池金治	優賞



年度	年度	内容	作品名	受賞者
一九九六	平八	(芸) 特賞 (芸) 優賞 (芸) 優賞 (芸) 奨励賞 (芸) 奨励賞 (芸) 奨励賞 (芸) 入選 (芸) 入選 (ひ) 優秀賞 (ひ) 佳作	アクリル絵と共に 七福神が宿る大子町 水戸八景巡り パチンコ 日立風流物 台湾かけあるき 遥かなり修井寮 私たちの町 ひたちの桜 常陸太田の史跡を訪ねて 小祭礼 皐月の空に輝く霊峰 初夏の富士 雄姿を求めて 変わるもの 換わらぬもの 都市・風俗と郷土芸能 私のビデオ事始め みんなで創った海の塩NaCl 蘇る最後の將軍 慶喜展示館から 歴史と伝説の里 佐渡を訪ねて 地酒のこころ おれは三〇〇歳 やったぜ乗鞍岳	小池金治 及川春治 上原稔 友部丈夫 弓野忠次郎 関山 学 小池金治 及川春治 藤来 稔 友部丈夫 上原 稔 小林良弘 増岡信雄 小池金治 増岡信雄 小池金治 上原 稔 滝 孝光 滝 孝光 友部丈夫
一九九七	平九	(芸) 茨城新聞社賞 (芸) 特賞 (芸) 特賞 (芸) 優賞 (芸) 入選 (芸) 入選 (芸) 入選		
一九九八	平成十	(ひ) 優秀賞 (芸) 茨城新聞社賞 (芸) 特賞 (芸) 特賞 (芸) 優賞 (ひ) 佳作		
一九九九	平成十一	(芸) 優賞 (芸) 優賞 (ひ) 佳作		

年度	内容	作品名	受賞者
一九九九 平成十一	(芸) 奨励賞 (芸) 奨励賞 (ひ) 優秀賞 (ひ) 佳作 (ひ) 佳作	つくしんぼ保育園の一日 我がさけび まつりの春 ひたちの春 ソムリエまみちゃん 助川海防城址 野生の海鵜を捕る男	小池金治 及川春治 藤来稔 滝 孝光 関山 学 友部丈夫 滝 孝光
二〇〇〇 平成十二	(芸) 特賞 (芸) 茨城新聞社賞 (芸) 入選 (ひ) 優秀賞 (ひ) 佳作	あなたの隣にレインマン 自然が生んだ大瀑布ナイアガラの滝 チエスボロー いわなのつかみどり 三百歳ご臨終 朝日に映える名峰マッターホルン 中国三峽くんだり 山中友子隊体験村 この一年八ヶ月 初孫 健ちゃんとスイスの旅 中国の仙境 九寨溝 成沢ささら鹿島で舞う	滝 孝光 小林良弘 滝 孝光 橋浦貞雄 滝 孝光 細川正男 原田 謙 松本 肇 原田英一郎
二〇〇一 平成十三	(芸) 特賞 (芸) 優秀賞 (芸) 入選 (ひ) 優秀賞		原田 謙 細川正男 原田英一郎
二〇〇二 平成十四	(芸) 特賞 (芸) 優秀賞 (芸) 入選 (ひ) 優秀賞		滝 孝光 原田 謙 細川正男 原田英一郎

## 会員の記録

平成15年3月1日現在

名 前	入 会	在籍
渡辺治美	1982(昭57)/9	
木下 衛	1982(昭57)/9	
西野 武	1983(昭58)/7	
石川 敦	1983(昭58)/7	
藤来 稔	1983(昭58)/7	○
芳賀三男	1983(昭58)/7	
本郷直尚	1983(昭58)/7	
鈴木光雄	1983(昭58)/7	○
小室政衛	1986(昭61)/7	○
海老沢公	1986(昭61)/7	○
上野卓哉	1987(昭62)/1	
石川 久	1987(昭62)/10	○
橋浦貞雄	1987(昭62)/11	○
斉藤 誠	1987(昭62)/11	
江尻昌男	1987(昭62)/7	
国分清一	1987(昭62)/7	
山口 進	1987(昭62)/7	
小池金治	1987(昭62)/7	○
清和俊二	1987(昭62)/7	
草野 勤	1987(昭62)/7	
滝 三男	1987(昭62)/7	
竹内 豊	1987(昭62)/7	
佐藤長次	1988(昭63)/1	○
石川 誠	1988(昭63)/10	○

名 前	入 会	在籍
阿部 博	1982(昭57)/1	
岡喜久雄	1982(昭57)/1	
金沢和男	1982(昭57)/1	
高橋純雄	1982(昭57)/1	○
黒沢 勇	1982(昭57)/1	
根本義男	1982(昭57)/1	
三森清保	1982(昭57)/1	
小山礼二郎	1982(昭57)/1	
村山良一	1982(昭57)/1	
島崎健一	1982(昭57)/1	
平輪憲道	1982(昭57)/1	
豊田正夫	1982(昭57)/1	○
矢部正夫	1982(昭57)/1	○
鈴木 静	1982(昭57)/1	○
木村三郎	1982(昭57)/10	
関 太郎	1982(昭57)/2	
小林良弘	1982(昭57)/3	○
中根泰雄	1982(昭57)/3	
綿引擎甲	1982(昭57)/3	
及川春治	1982(昭57)/4	○
海老原精一	1982(昭57)/6	
小林義治	1982(昭57)/8	
椎名 亮	1982(昭57)/8	
鈴木 隆	1982(昭57)/8	○



名 前	入 会	在籍
関山 学	1997(平 9)/3	
高野栄一	1997(平 9)/8	○
滝 孝光	1997(平 9)/8	○
茅根善政	1997(平 9)/8	
松本 肇	1997(平 9)/8	○
伊藤 廉	1998(平 10)/12	○
原田 謙	1998(平 10)/2	○
坂江鉄男	1998(平 10)/7	
井坂一男	1999(平 11)/1	
井村泰也	1999(平 11)/7	○
吉村 進	1999(平 11)/7	○
本田正次	2000(平 12)/6	○
細川正男	2001(平 13)/1	○
原田英一郎	2001(平 13)/6	○
戸羽三弥	2002(平 14)/4	○
外山仁一	2002(平 14)/4	○

名 前	入 会	在籍
鈴木邦弘	1988(昭 63)/7	
鎌形 進	1988(昭 63)/8	○
黒沢光明	1988(昭 63)/8	
小田切亘	1988(昭 63)/8	○
上原 稔	1988(昭 63)/8	○
太田勘次郎	1988(昭 63)/8	
嶋之木誠一	1988(昭 63)/8	○
弓野忠次郎	1988(昭 63)/9	○
高木正興	1989(昭 64)/1	
関 清美	1989(平 1)/2	
波多野行雄	1989(平 1)/7	
小林照男	1992(平 4)/1	
庄司次雄	1993(平 5)/1	
鈴木忠正	1993(平 5)/11	
江波戸昇	1993(平 5)/2	
田光義和	1993(平 5)/7	○
松下喜行	1994(平 6)/4	○
小池 彪	1995(平 7)/1	
小又力博	1995(平 7)/1	○
村田一郎	1996(平 8)/5	○
菅原喜一	1996(平 8)/6	○
増岡信雄	1996(平 8)/6	○
友部丈夫	1997(平 9)/1	○
大竹七衛	1997(平 9)/3	○

## ひたちビデオサロン会則

1. 名 称 本会は、「ひたちビデオサロン」と呼びます。
2. 事務局 本会の事務局は、日立市末広町1-1-4 日立市視聴覚センター内におきます。
3. 目 的 本会は、ビデオを趣味とする人の集まりで、ビデオに関する知識の修得と技術の向上、普及を図り、あわせて会員相互の親睦を深め、地域文化の向上に役立つことを目的とします。
4. 事 業 本会の目的を達成するために、次の事業を行います。
  - (1) 毎月1回、例会を開きます。
  - (2) 撮影会、作品発表会などを開催します。
  - (3) 地域文化、社会福祉の向上のための活動に参加します。
  - (4) 会報の発行をします。
5. 会 員 日立市内または近辺に住所・勤務地をもち、ビデオを趣味とする人は、だれでも会員になることができます。
6. 役 員 本会に次の役員をおきます。

会長 1名、副会長 1名、会計 2名、会計監査 1名、事務局 2名、幹事 若干名。

役員の出選は、会員の互選によります。任期は1年としますが再任を妨げません。

役員は、会の運営にあたり全員でその責務を負います。
7. 会 計 本会の運営費は、会員の会費、その他の収入をもって充てます。その運用は、役員会があたり、年度ごとに決算をして会員に報告します。
8. 会 費 会員一人につき、年額5,000円とします。ただし、必要に応じて役員会の決定により臨時会費を徴収することができます。
9. 年 度 本会の年度は、1月1日より12月31日までとします。
10. 改 正 本会則は、会員の総意により改正することができます。

制定 昭和57年1月24日

(平成4年7月、会費を改正)

(平成12年6月、役員を改正)



## 編集後記

この記念誌がお手元に届くころには、金砂の山から東西二組、五百人を超える礫出の大行列が、往復七十五キロ余りの道程を市内の水木浜までやってきます。七十二年後に映像と世紀始めに生きた我々の足跡を残すべく、会員は必死にその後を追いかけることでしよう。

予算の制約の中で、少しでもカラー写真を多く入れたくて自前で編集と印刷に挑戦はしたものの、WORD2002の縦書き、本綴じスタイルに、表罫線がうまく入らず悪戦苦闘、更に最後に裏抜けしない印刷用紙探しとインク代まで悩みは尽きず、プリンター三台揃い踏みしてやっと百冊を印刷できました。

作った本人たちは結構できばえに満足しているのですが、素人細工ゆえの行き届きの点はご寛容ください。

## ひたちビデオサロン

### 二十周年記念誌

(非売品)

発行

平成十五年三月十六日

発行者

ひたちビデオサロン

事務局

茨城県日立市末広町一・二・四  
日立視聴覚センター内

編集・印刷

豊田 正夫

海老沢 公

小田切 亘

細川 正男

原田英一郎

及川 春治

滝 孝光

他

製本

豊印刷



